同志社大学

2014 年度　卒業論文

日本人のマテリアル・カルチャーの特徴

―ロシア人との比較を通じて―

社会学部社会学科
学籍番号：19111100
氏名：シッチ　アナスタシア
指導教員：立木　茂雄
（本文の総字数：26,653 字）

要旨

本稿は、人のものに対する考え、ものの扱い方をマテリアル・カルチャーといい、ロシアとの比較を通じて、日本のマテリアル・カルチャーの特徴を見出し、日本のものの扱い方は生活の作法であるため、日本の場合だけものの大切な扱いは他の生活の面にいい影響を与える仮説を実践的に確認し、具体的にどのようなものへの考えや態度はどの生活の面に影響を与えるかを明確にするための研究である。

方法として、オリジナル「ものに対する考え」尺度と「普段の態度・行動」尺度を作り、その尺度の基にロシアと日本でアンケート調査を行った。

結果として、日本のマテリアル・カルチャーの 5 つの特徴を見出すことができた。そして、ものの扱いと普段の態度・行動の間にロシアの場合にも相関が見られたが、その相関は内的な性質を持ち、自分の満足を満たすだけである。一方、日本のものへの考えは人の関心を外部に向け、人を成長させ、他の人への態度や世界観にまで影響を及ぼしている。

キーワード：マテリアル・カルチャー　物質文化　物教徒　社会的自己

目次

はじめに 1

1　問題の背景および先行研究 2

1.1 問題の背景：社会的自己形成としての異文化のマテリアル・カルチャーの体験 2

1.2 先行研究.....3

（1）マテリアル・カルチャーとは何か、物質文化の重要性、ものの持つ 2 つの側面、ものへの象徴的なアプローチ.....3

（2）日本人のものに対する考えの特徴 4

（3）仮説の証拠：日本人のものの扱いと他の生活の面のつながり 9

1.3 目的と意義 12

2　方法 12

2.1 調査対象者.....12

2.2 調査項目・調査の手続き 12

3　調査結果および考察 15

3.1 因子分析によってできた新しい尺度.....15

3.2 日本とロシアの比較.....17

3.3 ものに対する考えと他の生活の面の相関.....25

（1）日本.....25

（2）両国.....28

（3）ロシア 30

3.5 考察 33

（1）ものに対する考えについて 33

（2）普段の態度・行動について 34

（3）「ものに対する考え」と「普段の態度・行動」の相関について

……34

終わりに……35

参考文献

1　序論

1.1 先行研究

（1）マテリアル・カルチャーとは何か、物質文化の重要性、ものの持つ 2 つの側面、ものへの象徴的なアプローチ

（2）日本人のものに対する考えの特徴

（3）仮説の証拠：日本人のものの扱いと他の生活の面のつながり

1.2 問題の背景：社会的自己形成としての異文化のマテリアル・カルチャーの体験

1.3 目的と意義

2　方法

2.1 調査対象者

2.2 調査項目・調査の手続き

3. 調査結果および考察

3.1 因子分析によってできた新しい尺度

3.2 日本とロシアの比較

3.3 ものに対する考えと他の生活の面の相関

（1）日本

（2）両国

（3）ロシア

3.5 考察

（1）ものに対する考えについて

（2）普段の態度・行動について

（3）「ものに対する考え」と「普段の態度・行動」の相関について

終わりに

はじめに

本研究では、マテリアル・カルチャー（物質文化）の概念を使って日本人のマテリアル・カルチャーの特徴について考察する。Miller (2005) によると、物質文化は人々が世界に対する持つ態度の基礎である。物質文化は人々の自分を理解する方法として重要である。物質文化は私たちを物事に導いて慣らす外部環境である。また、ヘーゲル (1807) によると、私たちは形態、カテゴリーとして以外には、自分自身を含め、何も理解することができない。こういった形態は洗練される時、私たちはその形の中により複合した可能性を見出すことができる。例えば、法律を作ることによって、私たちは自分たちを権利や制限を持った人間として理解する。芸術を作ることによって、自分たちを天才、もしくは平凡な人として見える。物質文化の鏡を見ること以外に、私たちは誰であるか知ることができないし、今の私たちにはなれない。またその物質文化の鏡は過去の人々によって作られた歴史的な世界であり、物質文化として私たちの前に現れ、私たちを通して発達し続けるものである。

また内堀（1997：3）はこのように述べている：

> われわれは、さまざまなモノに囲まれ、モノとともに世界に存在している。いや、むしろモノそのものが世界であり、また世界はモノとして存在している、といっても過言ではないかもしれない。実際、モノはわれわれの生に根深く関与し、われわれはモノなしに一瞬たりとも生を紡ぐことなどできない

つまり、物質文化、ものの世界は私たちにとって鏡であり、私たちの生活に大きな影響を与えている。

マテリアル・カルチャーはどの社会でも同一のものではない。田中（2009：166）は「文化的コード」という概念を使い、現地の文化的コードを共有する人たちしかその文化から直接影響を受けていないという。また、田中によって、モノは社会的実践の文化のような「非言語的な領域を写し取る」とともに、そうして作出された非言語的なモノの側面によって社会が営まれていると述べている。Appadurai (1988)も文化に焦点を当てて商品の位置づけをこのように言う。あるもの（商品）がどういうものであり、また何のためにあるかは、文化の問題である。同じものが違う人によって違うふうに認知されている。田中やAppadurai の主張から、違う文化では人々が違う文化コードを共有しており、違う文化では同一のものが異なる文化コードとなりうると考えられる。また、違う文化で違う物質文化が存在し、ものが違うふうに人の生活に影響を与えると考えられる。

榮久庵 (1994) によると、日本人のマテリアル・カルチャーの特徴は日本人が「物教徒」であり、ものを宗教とする国民である。日本ではものの扱いが生活の作法であり、もの扱いは他の生活の面のすべてに影響を与える。筆者が榮久庵の理論と自分自身の日本での生活の経験に基づき、「日本ではものを大切に扱うほど、他の生活の面もよくなるのではないか」という RQ を立てた。その仮説を確認するために、日本人のものを大切にする特徴を表す「ものに対する態度」や仮説の「他の生活の面」を具体化する「普段の態度・行動」の尺度を作り、その尺度の基にアンケート調査を行った。日本人のマテリアル・カルチャーの特徴を確認するために、日本だけではなく、筆者の母国であるロシアでも調査を行い、ロシアとの比較を通じて日本人の特徴をはっきりすることにした。そして、「ものに対する

態度」尺度や「普段の態度行動」尺度の相関を見ることを通じて、仮説が正しいかどうかを確認した。

第 1 章の前半では、使用した論について書く。まず、マテリアル・カルチャー全般の理論の中で、物質文化の重要性やものへの記号アプローチについて書く。その次に日本人のものへの態度の特徴について書く。先行研究の最後の部分では、日本人のものの扱いと他の生活の面の密接な関係について書く。第 2 章では調査方法や手続きについて書く。第 3 章では、調査結果と考察について書く。

第 1 章　問題の背景および先行研究

1.1 問題の背景：社会的自己形成としての異文化のマテリアル・カルチャーの体験

ここでは問題の背景について書く。筆者は生まれも育ちもロシアで、3 年前に来日した。日本で生活をしている中で、日本人のものの扱い方から影響を受け、自分の変化に気づいた。ロシアで生活をしていた時と比べ、ものを意識するようになり、ものを気にするようになり、ものを大事にするようになった。掃除や修理の大切さや自分の周りの清潔性も重視するようになった。また、その過程の中で、他の人、自分の行動、自分の言葉、身だしなみ、環境、食べ物、健康、そのすべてをさらに意識するようになった。

G.H.ミード（1934＝1995）によると、社会的相互作用の中で自我が生まれると主張している。また、自我は「I」と「me」の部分から構成されている。「『I』とは、他者の態度にたいする生物体の反応であり、『me』とは、他者の態度の組織されたセットである」とミードは論じる。つまり、私たちは他者のすべての態度を採用してから（「me」の発生）、自分の行為、（「I」）を通して反応する。社会的相互作用の過程に参加している人たちは、お互いの態度を取り、何らかの行動で反応することでお互いの態度を変化させる。その過程の中で自我は構成し、進化していく。また、ミードによると、

> 自我とは、まず存在していて、そのつぎに他者と関係をむすんでいくようなものではなく、それは社会的潮流のなかの、いわば小さな渦で、したがって社会的潮流の一部でもある。それは、個人が自分の属している状況に対して、たえず前もって自分自身を適応させていき、状況にたいして反応し返していく過程である。

また、自我は社会過程に含まれている人たちとの関係形成の結果として個人の中で発達するとミードは論じる。他の人とコンタクトを取ると、私たち初めて自分自身にとっての対象となるコミュニケーションができ、社会的過程の中の自分の役割を理解することができる。

筆者は、日本という違う社会的潮流に入り込んだ結果、「日本人」という他者と出会い、日本人のマテリアル・カルチャーという新しい態度を採用し、結果として日本人のようにものを扱うようになった。それは新しい社会的自己、あるいは対的自己の形成である。筆者は日本に来て初めて自分自身を対象とした目で見、自分の「ロシア人自己」に気づいた。日本人と出会ったきっかけで、日本人を通して、自分が日本人とちがって、ものに対してロシア人としての態度をとってきたことがわかった。ロシアにいた時に、ものと他の生活の面をまったく別の世界として見て、ものの大切な扱いをそれほど重視しなかった。しか

し、日本人との相互作用の中で日本人のマテリアル・カルチャーを体験することができ、人間がものと共に生きており、ものの扱いと人に対する態度、自分に対する態度、環境にたいする態度、すべてがつながっていることがわかった。その結果、より充実した人生を送るようになった。

筆者は２つのマテリアル・カルチャーを体験したおかげで、日本人のマテリアル・カルチャーの良さを実感することができた。今までものを大切にしていなかった筆者がものを大切に扱うようになり、他のすべての生活面の変化に気づいた。そこから、ものと共に生きる考えを持っていれば、ものを大切に扱うことが他の生活の面や人柄によい影響を与えるのではないかという RQ に至った。

1.2 先行研究

（1）マテリアル・カルチャーとは何か、物質文化の重要性、ものの持つ 2 つの側面、ものへの象徴的なアプローチ

ここでは、マテリアル・カルチャー全般の理論について述べる。

物質文化は、「人間の再生産のために役立つ物的手段」である（祖父江他 1978）。

また、Miller（2005）はマテリアル・カルチャーについて次のように述べている。非物質は物質文化を通してのみ説明することができるという。たとえば、消費は人々が自分たちを作るために大事な行動である。また、社会関係と物質文化について、次のように説明されている。社会的関係は私たちのマテリアル世界の中、またそのマテリアル世界を通して存在している。たとえば、習慣的にサリーを着ている女性は、洋服を着ている女性と比べ、ただ単にサリーを着ている女性ではない。サリーを着ることは他の人と接する方法から、彼女は「現代的」、あるいは「論理的」であるとは何かという自覚にまで影響を及ぼすことができる。つまり、Miller の主張から、物質文化が私たちの行動や思考、私たちの社会的関係にまで影響を及ぼしていると言える。同様の考えは J.A. Price (1973:216) にも見出せる。Price によると、物質文化は根本的な意味で人々に行動規範を与える。人々の衣服, 住居, 交通機関, 通信機関などといったものが、思考様式や対人関係に最も大きい影響を与える。

物質文化が人間の行動を根本的に規定するということをわかった上で、具体的に物質文化研究の方法について説明する。祖父江他（1978）によると、物質文化研究において必要なのはものと人の関係を見る立場である。「物質文化の面における変容の背後には、これと結びついた社会構造・人間関係の変化と、さらには精神生活や心理的側面における変貌とが存在している」からだ。またその関係では人→モノという方向の関係だけでなく、モノ→人の関係も重要である。モノは人々には新しい行動のパターンを与えるからだ。さらに、祖父江他（1978）の秋山村の研究事例の中で、人とモノの関係の見方の観点から、道具のもつ 2 つの側面について説明されている。1 つ目は、道具の機能面、モノから人を説明する立場である。2 つ目は、道具の持つ象徴的な側面、生活の中で無意識に道具に対する感情を表すような面、人からモノを説明する立場だ。たとえば、秋山村の事例研究の調査の中で、村の人はハナカミを囲炉裏の火で燃やすことに対して不快感を示し、それは囲炉裏に対して神聖感とつながる。本卒業論文ではこの人の道具の象徴的見方に基づいて考察をする。

ものの象徴的な見方の理論について Baudrillard（1970＝1979）も論述している。

Baudrillard は財への記号アプローチを作った。そのアプローチによると、友人からの贈り物などは心理的拘束を生み出し、モノを替えがたいものにする。このアプローチはまたSahlins (1976＝1987)によって試みられた。Sahlins は、ものの使用価値は象徴システムによって基礎づけられているという。また『「効用」は、モノの性質ではなく、客観的な諸々の性質の意味作用にほかならない』という。牛は「食べ物」だが、犬はそうでない。または男はズボン、女はスカートを着ることはその例である。さらに、榮久庵（1994 : 83）によると、「モノに物的機能があって当たり前。モノに心を認めなければ、機能だけを使用すれば事たりるのだから、この場合ヒトとモノとの関係は主人と奴隷の関係になる」。

上記をまとめると、物質文化は私たちの行動や思考、社会関係に影響を及ぼし、私たちの人生において大きな役割を持っている。また、物質文化研究の方法ではものと人の関係を見る立場がある。その中でもものの機能の面を中心に、ものから人を説明する立場と、ものの象徴的な面を中心に、人からものを説明する立場がある。そして、ものの象徴的な側面について、記号アプローチという理論があり、ものの価値は人がものに対して持つ考えに基づくという。本研究では、人からものを見る立場を軸にし、ものの象徴的な側面に集中し考察する。

(2) 日本人のものに対する考えの特徴

ここでは日本人のものに対する態度や考えの特徴について説明する。そのために、『現代日本における伝統と変容 1 暮らしの美意識』（祖父江 1984）と『ものと日本人』（榮久庵 1994）の参考文献および筆者の日本で体験したエピソードを材料として使う。また、説明の仕方として、特徴を 2 つのグループに分ける。 1 つ目のグループでは先行文献で言われていること、筆者も体験したことあることについて書く。2 つ目のグループでは先行文献で言われていないが、筆者が体験したことあることについて書く。

１つ目の先行文献で言われていること、筆者も体験したことあること

1. 祖父江（1984）は日本人のものの扱い方の特徴として、日本の「カバー文化」を取り上げる。その文化には二重にすると立派にする思考と、汚れを防ぐ意識、ものが長く持つように、もの保存の実質的意味が含められている。日本人のものの保存文化に関して榮久庵（1994 : 37）も言っている。昔の京都では京の町屋のおかみは道具の保存の専門家であった。それは京都の「しまつ」文化の一つであった。また京都の子供たちは「しまつ」を母に教えられて育ち、それは日本の文化的基盤となっているという。

   筆者も日本人のものの保存に関するエピソードを体験したことがある。日本人は食べ残した食べ物を必ずラップに入れてから冷蔵庫に入れる。また小麦粉、乾燥したワカメなどの袋を一回開けた後、その袋をクリップで止め保存する。本や紙がだめにならないようにカバーやファイルを使う。ベッドのシーツの上にも直接寝るのではなく、シーツの上にさらにカバーをつけシーツが汚れないようにする。ペットボトルのカバー、雨日用の店の前に置いてある傘袋なども日本人のものの汚れや破損を防ぐ意識の表れであると思われる。

2. 祖父江（1984）は「ものには命があって、それを断つことは、罪悪であるという考え方が、今日でもわれわれの心の底に生きつづけている」。また、「日本人のアニミズム的世

界観は、〔中略〕限られた儀礼にだけ見られるものではない。日常的な生活のなかにも、そのアニミズム的心情があらわれているのである」と述べている。榮久庵（1994：15）も日本人のものに対するアニミズム観についてこのように言っている

> 日本人のモノ観、モノの見方の特異性のもっとも重要な点は、モノに生命があり、心があるというモノの見方である。命があり、心があるからモノと対話できる民族なのである。そうしたモノ観によってくるところは、日本人の自然観の特異性にあろう。森羅万象に神やどる。神々との共生という自然観が文化の基軸にあり、モノも万象の一翼をなして、日本人の世界像をつくりあげている。

また、日本ではこの自然観をもちつづけてきたからモノが好きな民族特性は生じた。日本人はモノが好きだから、モノに心を感じ、モノと対話ができ、仲良くしていける、ものを大事にしていけるのである。そして、日本人はものの心がわかるというのは、「たいへん貴重な日本人のアイデンティティーなのではないか」（榮久庵、1994：158）というふうに述べられている。

筆者も日本のものに対するアニミズム観について次のようなエピソードを思い出せる。日本人はよく「ものが痛い」、ものが感情を持っているかのようにものに対して表現をしている。また、長く使ったもの（ぬいぐるみ、財布など）が古くなったら、そのままゴミ箱に捨てるのではなく、わざわざ寺まで捨てに行く。また日本人からよく人形が人に似ているから、悪く扱ったら「人形に狙われそう」と聞いている。逆に、ものを大切に扱ったら、自分にもいいことが起こると信じている日本人によく会った。ご飯が「神」であるから、ご飯を食べ残さない習慣も日本人ものに対するアニミズムであると考えられる。

3. 祖父江（1984）は日本人の規範意識は「美醜」の基準に基づくと主張している。榮久庵（1994）も日本人の「美意識」について論述している。簡素美、なりゆきの美、素材その色や形、幾何学的原型の尊重が「日本人的美意識」であり、神道からきている。たとえば、日本人にとって幕の内弁当が美しい。蓋をとると、すべてがいちどきに見下ろせ、そしてその風景が美しい。「色もかたちも材質も味わいの異なるモノを幾十種もとりあわせて、混乱していない。雑多でない。とりあわせの妙としかいいようがない。センス・オブ・コミュニケーションである。」幕の内弁当には、「ひとつのいいもので、ものの世界をととのえれないものか、という願いがある。」（榮久庵　1994：164-166）また、「千利休は、〔中略〕モノを見る、とりあわせる面白味を断然深いものにした。それが国民的素養として広まったことは、日本人の美意識の複雑さのレベルが高いことの証しであるといってもよいであろう」。（榮久庵、1994：371）そして、「複雑なる単純――の美学」は「日本人のオリジナリティとして世界の人々を魅力していく」（榮久庵　1994：373）さらに、日本では季節感は細かく感じ分けられている。それは物教徒の日本人のモノ観の一つである。四季がはっきりしており、1 か月の中にははっきりと上旬・中旬・下旬がある。また「それぞれの季節の表現は、着物の柄にとどまらず、座布団や湯呑、酒器にも材質や柄のモチーフのちがいによって表現されている」。（榮久庵 1994：240）

筆者も日本人の「美意識」が日本のものに対する特徴の１つであると考えている。日

本人がものの細かいデザインまで気づき、きれいなものへのこだわりを持っている。筆者が日本人の友達とカフェなどに行く時、よく日本人に「この花びんが面白い」、あるいは「このランプのデザインがいい」と言われ、筆者が気づかないものを指摘され、興味を示す。日本人の小さいものが好きな文化も日本の美意識であると思われる。

4. 祖父江（1984）は、日本では並べる文化があると報告している。台所道具を全部並べて置くことはその一つの証明である。またそれは水屋飾り的思想からきているという。榮久庵（1994）は、日本人の「秩序観」が日本人のもの観の一つであると述べている。また、その日本人の秩序観をよく表しているのは、日本の伝統的な正調折り紙であるという。その秩序観というのは、「制約の中での自由が、無制限の中でそれより価値が高い」という見方である（榮久庵　1994：239）。

　筆者が日本人の服や本を箱に入れて保存する習慣が日本人整理意識の表れであると考えている。また、日本人のキッチンでは調味料が調味料の箱で、インスタンススープが別の箱で、またその箱それぞれにメモがありそこに何が入っているかが書いてあるという風景を何回か見たことがある。日本人の店のきちんと並べた品物も日本人の秩序感や整理意識であると考える。

5. 日本人はものの「尊厳」を守っている。（榮久庵　1994：18）そして、日本人は「モノに対して真を求める人、モノを通じて善を求める人、モノのうえに美を求める人、この真と善と美をモノに託して自らの愛を捧げつくす人」であり、また日本人の特異性の最もなるものは「モノへ愛を生き甲斐となしうる素質」である。またその素質から「モノをいつくしむ心、尊ぶ心、うやまう心が芽生える」（榮久庵　1994：290）。

　筆者も日本人がものを尊敬し、そのためにものを非常に丁寧に扱うと考える。茶碗をテーブルに置く時、音を立てないように、丁寧に置く。ものをゆっくりと手にのせ、ゆっくりと下ろすことがその表れである。ものを投げたりしない。ものに傷がでないように気をつけるところは日本人の特徴である。

6. 榮久庵（1994：361-362）は、日本人の掃除に対する考えについて述べている。雑巾かけ、庭の掃除、水まきなどといった体験は「モノを見ていく基礎的な力になっている。」またたとえば障子張りはモノ教育の始まりとしていい。なぜかというと、ものの構造、成り立ちを知ることができるからだ。さらに紙の質を手触りの感覚で覚え、そしたら「『紙』がみえてくる」、「紙を見る目ができてくる。紙を大事にする心もうまれてくる。」掃除をすることによってモノを透かすことができるようになる。「器物を磨くうちに、モノの生、老、病、死を知り、品質のよしあし、品格の高いもの、低いものを見る目が磨かれていく」という。

　筆者は同志社大学で茶道サークルに所属している。ある茶会の前の日に、その茶会が行われる寺に来て、サークルのみんなで寺の掃除をしていた。寺の板を一つ一つ何回か雑巾でかけ、頻繁に水を変えに行ったことが非常に思い出に残っている。また違う寺での座禅体験の後、トイレの掃除の壁を一センチずつ丁寧に洗うよう指摘され洗っていた時も日本人の掃除に対する態度が特徴的だと実感した。

7. 榮久庵（1994：241）は、品質としての価値は日本人の価値観であり、昔から機能より大きな指標であったと言っている。また、榮久庵（1994：58）によると、

> 質はクオリティー、品位をあらわす。素はオリジン、具体的な形をとるもととなるもの、の意である。求めるべきはこの「質」と「素」をあわせたもの、「質素なる贅沢さ」なのである。これが古くから、日本人の生活文化を支えるモノ観であった。

筆者も日本人の品質意識が高いと考える。日本人は材料の違いを理解し、ものの良し悪しを品質の基準で判断する。これについて筆者は次のエピゾードを思い出せる。ある日、日本人の友達とこの会話をした。「ペン買いたいから、100 円ショップ行っていい？」と友達に聞いたら、「ペンならちゃんとしたもののほうがいい！100 円ショップのやつはよくないから、違う店行こう」と言われた。

8. 榮久庵（1994：16）によると、日本人のモノ観は自然観に基礎をおいている。そして日本の地球観や世界観は列島という有限の世界にあって、そこで生き抜くためには省や倹約という発想ができた。また榮久庵（1994：37）は、日本人にとって環境保全、省資源、省エネルギーは新しい考えではなく、古代以来日本の時から「美学の柱となるコンセプト」、「生き方の作法」、「物教徒の信仰の証しとしてモノに対する作法」であり続ける。また日本人は耐久性があること（丈夫で長もち、リュース・リサイクル）を善とするという（榮久庵　1994：132）。

筆者は趣味として日本料理を作っており、日本料理のレシピ本を持っている。その本の特徴的なところ、本の最後に残った材料をどのように活用できるかというページがあり、同じ材料がでてくるレシピがまとめて書かれている。大学の日本人の友達にもよく「一人暮らしをしている時、野菜が腐らない方法ってなんかある？」とよく言われる。またものが必要以上に使われ、あるいは使わずに捨てられる場合は必ず「もったいない」という反応を日本人からいつも聞く。

9. 榮久庵（1994：124）は次のように述べている。「日本でも、昔ばなしは動物に感情移入するのが子供向きの物語の常套手段だが、道具の妖怪変化もよく登場し、数えあげてみると道具が主役になっている物語も〔中略〕意外に数多い。」また「現在の映像の世界でも〔中略〕ドラえもんのような道具が主役となる超能力道具ドラマ、道具世界の悲喜こもごもをつむぎ出すようなドラマへと、人々の関心は徐々に移行しはじめているように見える。」そして、榮久庵（1994：160）によると、日本ではものやことの比喩表現が無数にある。また、「日本では言の葉には魂が宿るとされた。〔中略〕そのモノを、そのモノの名で呼ぶと磨がさすとされ〔中略〕言葉に魂（霊たま）のさきわう国、だからこそモノにも魂が、容易に認められたのであった。」つまり、日本ではものが人の関心を引き、よく話題になっている。

筆者は日本人の生活の中でものについての話が多いと考える。ものはスポーツ・ファッションなどの話題と並び、日常的な話の話題の 1 つである。特に筆者にとって特徴的なのは、日本人のあらゆるものに対して「かわいい」という表現を使うことである。ロシアでは「ものがかわいい」という感覚あまりないが、日本人がその表現を日常的に使

い、「今日見たかわいい／もの」のネタが多い。

日本人は日常的にものを話題にすると書いたが、それはどういうものなのか、また何に影響するかについて、田中（2009：149-175）の理論を使って説明したい。田中は「モノ愛でるコトバを超えて」という章で次のように言っている。「モノは、言語によって世界から分節されることで初めて存在することになる。〔中略〕モノは言語を前提条件として存在する」のである。つまり、もののことを口にすればするほどものの存在意識が高くなるといえる。

10. 日本で大きな立場をとっている武士道には、さっぱりとした清潔感があった。また「清潔ということなら、昔から日本人の特質でさえあった」（榮久庵、1994：150-153）。

筆者も清潔性が日本人の特質であると考えている。その証拠の１つは、日本のマーケティングの仕方の１つは、チラシをティッシュと一緒に道で配ることである。日本人がよくティッシュを使うからだ。日本人の家でも必ずティッシュボックスが置いてあり、ティッシュボックスビジネスも光栄である。また筆者は日本でダンススタジオに通った時に、日本人のみんなはレッスンが終わったら必ずウエットシートで体をふく。服の下に汗がかかないように白いＴシャツなどを使い、汚れがなくても、一回着た服をすぐ洗う人が多い。手をふくためにハンカチを持ち歩き、手をふくことを目的としたハンカチを友達などにプレゼントすることも日本人の清潔性を表している。

2 つ目のグループの先行文献で言われていないが、筆者が体験したことのある日本人のものに対する態度や考えの特徴

１．筆者は日本人がものに対してジェンダーフリーであると考えている。つまり、日本人は男女にかかわらずものに対して同じ考えを持ち、同じようにものを扱っている。筆者の母国であるロシアでは、女がものを大切するべきであり、男は必ずしもそうでないというイメージが強い。男は掃除したり、ものを丁寧に並んだり丁寧に扱ったりすることをあまりしない。一方、日本ではもの扱いはジェンダーによるものではなく、国民のアイデンティティーになっている。そのため、日本人の男も女と同じように掃除をし、ものに対して丁寧であるといえる。また前述したように、日本人がものに対して「かわいい」という言葉を使うが、それは男女にかかわらずみんな使う。一方、筆者にとって「かわいい」という言葉が女の表現である。また日本が使うもので男女の違いがロシアより低いと思う。日本人男性の服のデザインやカバンの形が特にその例である。

2. 日本人がものに対して愛着性、感情を持っている。ものと深い関わりを持っている。ものに対して感謝の気持ちを持ち、ものが「頑張ってくれた」、「ありがとう」などの発言をよく言う。また日本ではキャタクター商品やブランドを好む傾向がある。そして特定のキャラクター商品や特定のブランドのものを使う人が多い。何回同じ食べ物を同じ店で食べる人が多いと考える。そういったことも愛着性の気持ちとつながると考える。

3. 日本人は修理意識を持っている。壊れた服や時計をよく直し、使えなくなったものを活用し違う目的で使うことが多い。電気商品などの保証や修理サービスも充実している。クリーニングサービスの普及も修理意識とつながると考える。

4. 日本人はものが好きで、もののことを気付く人たちである。ものに心を感じ、ものの存在を意識し、ものと一緒に暮らしている。なので、他の人がものをそまつに扱ったら、それに気づき、抵抗感を持っている。筆者の日本での生活ではこのようなエピソードがあった。日本人の友達と道を歩いていた時に、目の前にスーツケースを持ち歩いている外国人がいた。そのスーツケースには様々なぬいぐるみのキーホルダーがつけられており、歩いている時に地面と接していた。それを見て筆者の日本人の友達は抵抗感を示し、「日本人だったらそんなことは絶対起こらない」と反応した。また、次のストーリーを日本人友達 A さんから聞いた。A さんがアメリカに留学していた時に、外国人のルームメイトと一緒に暮らしていた。ある時そのルームメイトが自分のスーツケースを足で蹴った。そしたら、A さんがびっくりして、「ものをそう扱ったらだめだ！ものも痛いでしょう！」と言って、ルームメイトと喧嘩した。

（3）仮説の証拠：日本人のものの扱いと他の生活の面のつながり

榮久庵は『モノの日本人』の本の目的の一つは、ものを「つかう人（生活者）の行動規範を示すこと」であるという。筆者は主にその理論を使って、日本人のもの扱いと他の生活の面のつながりの証拠を探りたい。また、「他の生活の面」を他の人への態度、自分自身への態度、言葉への態度、環境への態度、服装・美容への態度、食べ物への態度、健康への態度とういう観点から見る。

榮久庵（1994）によると、日本人は物教徒であり、モノを宗教とする国民である。ゆえに日本人にとってものの扱いは生活の作法であり、モノの扱いは世界観であり、モノの扱いと他の生活の面は密接に結びついているのである。日本人は「モノを信仰している民」であり、「モノへの異常のこだわり」を持っている民族である。そして「日本人はことさらモノの世界からの影響を受けやすい民族」である。日本人は世界各国のものを最大級に評価してきた人たちでもある。

榮久庵（1994：230）は、「物教徒日本人の具足戒」を 5 つ紹介する。その 1 つ目は、モノへ帰依であり、日本人の原点である「人はモノによって救われる」ことに常にたちかえることである。2 つ目は、仏教の仏・法・僧を物・デザイン作法・デザインマインドを体した僧にしたことである。3 つ目は、慈悲心である物心にかえること。4 つ目は、モノと人の観察に怠りないこと。人だけでなくモノの世界を対等に観察していくことである。5 つ目は、

いまここに無いものを、あらしめる創造心を発揮することである。そして、「モノに帰依した人間が、モノによってその生き方を、どれほど変えてきたかを知るとき、モノ世界の無限な展開が、人間世界の無限の進展を可能にすることはあきらかである。」そしてここでは榮久庵は改めて日本人の物教徒の意味について述べている。日本人はモノに心があることを認め、その態度を身に着けている。またそれはモノとのコミュニケーションができる能力を持っているとつながる。またモノに神を認めることは、自分の中に神を認めることでもある。そして、「物教徒とは、モノを世界の規模で考えることのできる人である。」

次は、ものの扱いの他の人への態度への影響について述べる。

物教の教義はモノを扱うヒトの行動規範という形をとる。その規範が人の作法として、

モノを尊ぶことを通じて人を尊ぶこととつながっている。（榮久庵 1994：27）そして榮久庵（1994：321－322）によると、ものを大切にするというのは、「その根っことは人を大切にする運動がある。モノを大切にする運動は普通教育において、課外活動ではなく主要科目でなければならない。」また、「物教徒がめざすデザインとは、モノの心と人の心の新しいつながりかたを開発することである。モノの世界を知ることによって人の心の深さを知る」という。（榮久庵 1994：353）くわえて、日本では千利休の茶道文化は国民のレベルまで普及し、高く評価されている。その千利休の教えの根本には、ものを通じて人間の精神を高める方法がある。モノのデザインの体系の構造、理想的な生活の境地、もの環境のあり方を一服の茶を飲むことを通じてシミュレーションする、「生活デザインのための素養をつちかうシステムであった。」また「お茶事としてやっていることがらの本質」は、「モノとモノとの関係をつくりあげながら、人と人の関係をそこにもつれこませていく作業なのである」（榮久庵 1994：156－162）。

ものの扱いと自分への態度の関係について次のように述べられている。
榮久庵（1994：258）によって、

> 日本民族はモノに依って自らの証しをたてる民族である。モノの進化なしに精神の進化はない。気品あるモノによって、気品ある精神は生まれる。気品ある心は、気品あるモノをもつことによって証される。モノのデザインによって、モノに気品が生まれ、人心が気品をそなえるに至る。

ものの扱いの精神への影響についてまたこのように述べられている。榮久庵の「物教徒日本人一七つの特性」（1994：233）の中に、思想やイデオロギーを物の取り扱いに映すこと、形の美を至上とすること、モノによって精神をすがすがしくしていくことなどがある。またそれらの特性をもってすれば、最も豊かで、平和な人生が築あげられるという。さらに、「高貴さをそなえたモノは、それを持つ人を高貴にする。」（榮久庵、1994：18）
くわえて、榮久庵（1994：365）はものの扱いの自己形成への影響について論述する。「生活空間の中のモノに自分の美意識や価値観をあらわしていく。この意味で生活の場、個人の自己形成、人間形成の道場である」。
そして、榮久庵（1994：36）によると、

> 山川草木をきめこまかく愛でてきた日本人は、地球にやさしい、環境に親しい、ということを自分にやさしい、という地平から実現していけることをもっともよくしっている民族なのである。

田中（2009：363）も、ものへの美意識と自分自身へのつながりについてこのように述べている。「品物が美しければ美しいほど、それを見たり持ったりする自分も、同じ様にそれ等の品々にあやかりまして、心の美しい人間になり得たらばと思はれるので御座居ました。」と述べている。また、「美しい品々と日夜を暮します事が、何らかの意味で自分を清め（きよめ）、自分を深くする事でありたいと思はれるので御座居ます。」

ものの扱いと環境への態度についてこのように書かれている。
「日本人にとって地球は一木一草にはじまる。〔中略〕目の前の花という実体が地球なのである。」「日本人にとって、一木一草が対話の対象である。それら自然素材をもとにした道具においても、素材との対話が地球との対話でもある。」また日本人は「製品に地球を詠みこんでいく。大地の慈悲に感謝と愛をこめていく。」のである。（榮久庵 1994：25）また、「季節を知ることは自然の成り立ちを知ることであり、素材の成り立ちを知ることは万物の成り立ちを知ることである。」（榮久庵 1994：127－128）自然観が美意識を形成することは、いうまでもない（榮久庵、1994：177）。

榮久庵（1994）はものの扱いの他の人や自分自身への態度の両方への影響、あるいは他の人、自分、環境の 3 つの態度への影響についての発言もしている。
「茶道も武士道も人間尊重の作法体系」である。さらに、「もてなしの道、貴さをあらわす道、人を、そしてモノを貴賓として迎える道を究めることによって、生き方に秩序が形成される」という。（榮久庵 1994：275－278）「自然を想う心くばりと、自分を救う心くばりとは同源に発する。地球を想う心くばりと人を想う心くばりも同源であろう」（榮久庵、1994：287）。
また、また、榮久庵（1994：363－364）は掃除の他の人、自分、環境への態度への影響について次のように述べている。

> 寺に入った小僧は、僧侶への道は掃除からはじめる。モノに触れていくことで、モノの生老病死がわかるからである。〔中略〕人間の知と感情がわかる。自然のしくみがわかり、人工のたくらみがわかり、そこに移入された人の心がわかる。人の心を読めなければならない仏道の修業の第一歩は、モノの心を知ることをつうじて人の心を知っていくことであり、具体的な行動規範として、掃除が筆頭にあげられていた。〔中略〕まず掃除によって環境をととのえ、ととのえられた環境によって精神を研ぎ澄ませてこそ、学問は成る、という。生活の場所に、一に掃除、がなくてならない由縁である。物教はモノを始めていくことによって新種のモノの存在を発見していく能動型、開発型の宗教である。その道場は子供にとっては個を確立していく生活の場そのものである。いま家庭には、モノがあふれている。混沌としているだけでは人が道具に負け、人の世界が道具に支配されている。これを秩序づけていく、そのしかたの中に自分の発見がる。モノに支えられている自分の位置を発見していける。自分なりのモノの秩序づけのしかたの中に自分があらわれる。

また榮久庵（1994：246－248、326－327）では、ものの扱いの服装、言葉、食べ物への影響について述べている。
日本語では、折り目節目という言葉がある。それは、時節の節目に、きちんと折り目のついた衣服を着用するという意味である。服に折り目節目をつけることが、「モノの高貴化の手法としてクローズアップされたことは、美学の美意識の実践的場面」である。「折り目をつけるということは、モノを新鮮化する見事な作法であり、折り目正しさがモノの高貴化の、そして人の高貴化の具体的手法でありえたところに、人間のもつ感性の妙を想うのである。」また、慈悲はモノをつうじてどのように表れるかについて、は仏教の七識になぞ

らえて説明している。その七識は色・触・声・聞・香・味・空であり、その中に「よき言の葉を口より発する」、「味わい深きものを舌にする」ことが含められている。

上記では、日本人が物教徒であるため、日本人の場合、ものの扱い方と他の生活面が密接に結びついているという仮説の証拠をまとめた。本研究では、日本人のものに対する考えと普段の行動・態度の間に相関があるかどうかを実践的に確認し、仮設が正しいかどうかを確認する。

1.3 目的と意義

日本人のマテリアル・カルチャーについての研究は極めて少ない。本研究の目的は、日本人のマテリアル・カルチャーの特徴を見出すことと同時に、日本人がものを生活の作法としているので、日本人の場合はものが他の生活のすべての面に影響を与えることを証明すること。また具体的にどのようなものに対する考えがどの生活の面に影響を与えるかを調べることである。

また、本研究のさらに大きい目的は、ものの大切な扱い方が人々の人生を充実させ、豊かにするとの証明することである。ものの扱い方と他の生活の面で本当に関連性があるのであれば、本研究は日本人のものの扱い方の大切さを世界に広げ、世界の人々を幸せにすることの第一歩になると期待する。

第 2 章　方法

2.1 調査対象者

本研究では、前述の日本人のものに対する考えや態度の特徴に基づいて尺度を作り、アンケート調査を行った。また本調査はロシア人や日本人の 16 歳から 30 歳までの人を対象とし、ロシアのサンクトペテルブルクや日本の京都で行われた。調査票を配布した結果、ロシアでは 87 人分、日本では 83 人分、合計 170 人分の回答を回収することができた。

2.2 調査票の作成・手続き

調査票の内容は 3 つの部分から成り立っている。1 つ目の「基本情報」では回答者の性別や年齢を問う。2 つ目の「ものに対する考え」部分では、日本人のものに対する考えや態度について 14 つの尺度を作った。その尺度は「汚れや破損を防ぐ意識」、「清潔性」、「ジェンダーフリー意識」、「アニミズム」、「美意識」、「整理意識」、「丁寧性」、「きれい好き」、「品質意識」、「もったいない」、「愛着性」、「修理意識」、「ものの話題の日常性」、「粗末な扱いに対して抵抗感を持つ」である。また各尺度について 2 問ずつを作り、回答者がその要素を持っているかどうかを測る。（表 1）

表 1　ものに対する考えの尺度

	尺度名	アンケートの質問	回答
1	汚れや破損を防ぐ意識	Q3　あなたは普段、食べ残した食べ物や切った野菜などを冷蔵庫に入れる際に、腐らないようにラップや容器を使いますか？	1. いつも使う　2. やや使う　3. どっちかというと使う　4. どっちかというと使わない　5. やや使わない　6. 使わない
		Q4　あなたは普段、ファイルや本のカバー、筆箱など、汚れや破損を防ぐためのものを使いますか？	1. いつも使う　2. やや使う　3. どっちかというと使う　4. どっちかというと使わない　5. やや使わない　6. 使わない
2	清潔性	Q5　あなたは、一回使った服をすぐ洗いますか？	1. 洗う　2. やや洗う　3. どっちかというと洗う　4. どっとかというと洗わない 5. やや洗わない　6. 洗わない
		Q6　あなたは普段、ティッシュペーパーやウェットシート等持ち歩いていますか？	1. いつも持ち歩く　2. やや持ち歩く　3. どっちかというと持ち歩く 4. どっちかというと持ち歩かない　5. やや持ち歩かない　6. 持ち歩かない
3	ジェンダーフリー意識	Q7　あなたは、男より女のほうがものを大切にすると思いますか？	1. 思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない 5. やや思わない　6. 思わない
		Q8　あなたは、ものを丁寧に扱うことが男らしくないと思いますか？	1.思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない 5. やや思わない　6. 思わない
4	アニミズム	Q9　あなたは、ものには命や魂（感情）があると思いますか？	1.思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない 5. やや思わない　6. 思わない
		Q10　ものを大切に扱うことによって自分にいいことが起こると思いますか？	1. 思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない 5. やや思わない　6. 思わない
5	美意識	Q11　あなたは普段、身の回りのもののデザインを意識していますか？	1.意識する　2. やや意識する　3. どっちかというと意識する 4. どっちかというと意識しない　5. やや意識しない　6. 意識しないない
		Q12　あなたは周りにあるきれいなものや醜いものに気付きますか？	1. 気付く　2. やや気付く　3. どっちかというと気付く　4. どっちかというと気付かない　5. やや気付かない　6. 気付かない
6	整理意識	Q13　あなたは、自分の部屋の服や本、身のまわりのもの等の整理をしますか？	1.する　2. ややする　3. どっちかというとする　4. どっちかというとしない 5. ややしない　6. しない
		Q14　スーパー等に行く際に、品物がきちんと並んでいててほしいと思いますか？	1. 思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない 5. やや思わない　6. 思わない
7	丁寧性	Q15　あなたは普段、ものを丁寧に扱うように意識しますか？	1.する　2. ややする　3. どっちかというとする　4. どっちかというとしない 5. ややしない　6. しない
		Q16　ものを丁寧に扱うことが大切だと思いますか？	1.思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない 5. やや思わない　6. 思わない
8	きれい好き	Q17　あなたは、どのぐらいの頻度で掃除をしますか？	1. ほぼ毎日　2. 週3－4回程度　3. 週2回程度　4. 週1回程度　5. 2週間1回程度　6. それ以下
		Q18　周りに汚いものを置かないように意識していますか？	1.意識する　2. やや意識する　3. どっちかというと意識する 4. どっちかというと意識しない　5. やや意識しない　6. 意識しない
9	品質意識	Q19　ものを買う際に、値段か品質、どちらを重視していますか？	1.品質を重視する　2. やや品質を重視する　3. どっちかというと品質を重視する　4. どっちかというと値段を重視する　5. やや値段を重視する　6. 値段を重視する
		Q20 ものを買う際に、それを長く使えるかどうか等、品質を意識していますか？	1.意識する　2. やや意識する　3. どっちかというと意識する 4. どっちかというと意識しない　5. やや意識しない　6. 意識しない
10	もったいない	Q21　買ったもの/食べ物を使わなかったら、もったいないと思いますか？	1. 思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない 5. やや思わない　6. 思わない
		Q22　資源を使いすぎないように意識していますか？	1.意識する　2. やや意識する　3. どっちかというと意識する 4. どっちかというと意識しない　5. やや意識しない　6. 意識しない
11	愛着性	Q23　あなたは、ものに対する愛着性を感じるほうですか？	1. 感じる　2. やや感じる　3. どっちかというと感じる 4. どっちかというと感じない　5. やや感じない　6. 感じない
		Q24　あなたは、普段よく使っているものに対して感謝の気持ちを感じますか？	1. 感じる　2. やや感じる　3. どっちかというと感じる 4. どっちかというとかんじない　5. やや感じない　6. 感じない
12	修理意識	Q25　壊れたものを直すべきだと思いますか？	1. 思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない 5. やや思わない　6. 思わない
		Q26　壊れたものの修理をしますか？	1. する　2. ややする　3. どっちかというとする　4. どっちかというとしない 5. ややしない　6. しない
13	もの話題の日常性	Q27　いいものを見た時に、他の人に話し上げようと思いますか？	1. 思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない 5. やや思わない　6. 思わない
		Q28　あなたの日常生活の中で、ものに関する話題が多いと思いますか？	1. 思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない 5. やや思わない　6. 思わない
14	そまつなものの扱いに対して抵抗感を持つ	Q29　他の人がものを投げたり、そまつに扱ったりなど、ものに対して不適切な態度をとったら、不快感を感じますか？	1. 感じる　2. やや感じる　3. どっちかというと感じる　4. どっちかというと感じない　5. やや感じない　6. 感じない
		Q30　他の人がものを投げたり、そまつに扱ったりなど、ものに対して不適切な態度をとったら、注意をしますか？	1. する　2. ややする　3. どっちかというとする　4. どっちかというとしない 5. ややしない　6. しない

最後の「普段の態度・行動」部分では、「他の人に気を遣う」、「自分の行動に気をつかう」、「言葉に注意を払う」、「環境を大事にする」、「服装、美容に気をつかう」、「食べ物に気をつかう」、「健康に気をつかう」という 7 つの尺度を作り（表 2)、それぞれについて 2・3 問ずつ作り、回答者の普段の態度や行動を測る。（表 2）

表 2　普段の行動・態度の尺度

	尺度名	アンケートの質問	回答
1	他の人に気を遣う	Q31　あなたは他の人に気を遣うほうだと思いますか？	1. 思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない　5. やや思わない　6. 思わない
		Q32　他の人を快適に感じさせるように気をつけていますか？	1. 気をつけている　2. やや気をつけている　3. どっちかというと気をつけている　4. どっちかというと気をつわない　5. やや気をつかわない　6. 気をつかわない
		Q33　他の人を傷つけないように気をつけていますか？	1. 気をつけている　2. やや気をつけている　3. どっちかというと気をつけている　4. どっちかというと気をつかわない　5. やや気をつかわない　6. 気をつかわない
2	自分の行動に気を遣う	Q34　あなたは普段、行動する前に、自分の行動が適切かどうか考えてから行動していますか？	1. 考えている　2. やや考えている　3. どっちかというと考えている　4. どっちかというと考えない　5. やや考えない　6. 考えない
		Q35　あなたは普段、行動した後に、自分の行動が適切だったかどうか振り返っていますか？	1. 振り返っている　2. やや振り返っている　3. どっちかというと振り返っている　4. どっちかというと振り返らない　5. やや振り返らない　6. 振り返らない
		Q36　あなたは普段、自分の行動をもっと適切にするためにどうすればいいか考えていますか？	1. 考えている　2. やや考えている　3. どっちかというと考えている　4. どっちかというと考えない　5. やや考えない　6. 考えない
3	言葉に注意を払う	Q37　あなたは普段、自分の言葉遣いに気をつけていますか？	1. 気をつけている　2. やや気をつけている　3. どっちかというと気をつけている　4. どっちかというと気をつかわない　5. やや気をつかわない　6. 気をつかわない
		Q38　あなたは普段、汚い言葉を使わないように気をつけていますか？	1. 気をつけている　2. やや気をつけている　3. どっちかというと気をつけている　4. どっちかというと気をつかわない　5. やや気をつかわない　6. 気をつかわない
4	環境を大事にする	Q39　あなたは節電や節水、ポイ捨てしない等、環境を大事にするための行動をするように意識しますか？	1. する　2. ややする　3. どっちかというとする　4. どっちかというとしない　5. ややしない　6. しない
		Q40　環境を大事にすることは大切だと思いますか？	1. 思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない　5. やや思わない　6. 思わない
5	服装、美容に気をつかう	Q41　あなたは普段、自分の身だしなみを整えることに気をつけていますか？	1. 気をつけている　2. やや気をつけている　3. どっちかというと気をつけている　4. どっちかというと気をつかわない　5. やや気をつかわない　6. 気をつかわない
		Q42　あなたは普段、自分の服装に気をつけていますか？	1. 気をつけている　2. やや気をつけている　3. どっちかというと気をつけている　4. どっちかというと気をつかわない　5. やや気をつかわない　6. 気をつかわない
6	食べ物に気をつかう	Q43　あなたは普段、健康に気をつけて食事をしていますか？	1. 気をつけている　2. やや気をつけている　3. どっちかというと気をつけている　4. どっちかというと気をつかわない　5. やや気をつかわない　6. 気をつかわない
		Q44　あなたは意識して野菜や果物等、健康にいいものを食べるように意識していますか？	1. 意識する　2. やや意識する　3. どっちかというと意識する　4. どっちかというと意識しない　5. やや意識しない　6. 意識しない
7	健康に気をつかう	Q45あなたは規則正しい生活を心がていますか？	1. 心がけている　2. やや心がけている　3. どっとかというと心がけている　4. どっちかというと心がけない　5. やや心がけない　6. 心がけない
		Q46 あなたは自分の健康に気をつけていると思いますか？	1. 思う　2. やや思う　3. どっちかというと思う　4. どっちかというと思わない　5. やや思わない　6. 思わない

「基本情報」以外の質問では、6 つの選択肢を作り、その得点によって回答者がその要素に当てはまるかどうかという判断をしていた。基本的には「1」の選択肢は 6 点、「6」の選択肢は 1 点。しかし、「ジェンダーフリー」尺度は逆転項目もあり、それらの問では「6」の選択肢は 6 点、「1」の選択肢は 1 点。

データ分析の目的は、主に 2 つある。1 つ目は、日本とロシアの比較を通じて、「ものに対する考え」の 14 つ尺度は日本の独特の特徴であることを確認すること。2 つ目は、

「ものに対する考え」と「普段の態度・行動」の尺度の相関を見て、日本の場合は相関がある、ロシアの場合は相関がないことを確認すること。

本調査の分析方法として、統計解析ソフトウェア SPSS を使い、因子分析を行った。因子分析とは、信頼性係数の算出に併用して、内的一貫性の検討のために用いる分析のことである。「因子分析は、分析に投入した変数でおたがいに相関が強い変数の合成変量を因子として、その因子と個々の変数との関係を調べることを通じて、変数の分類を可能とする手法である。」本調査では「ものに対する考え」設問群や「普段の態度・行動」の設問群それぞれに因子分析を行い、個々の設問ごとの因子得点を算出し、因子得点基づいて新しい尺度構成を試みた。また「分析に投入した１つの変数が１つの因子だけに因子負荷量が強くなるようにするためには」、因子負荷行列の回転（バリマックス回転）を行った。因子によって出来上がった新しい尺度を変数として保存し、分析の対象として扱った。また、因子得点の国別比較を通じて、日本とロシアの比較をできた。

日本とロシアの比較の続きとして、因子分析を行った後、記述統計の探索的分析を行った。この分析方法によって、中心傾向と散らばりの測度を見ることができる。国籍を従属変数にして、外れ値を外し、各因子について幹葉図を作成した。

そして、日本とロシアで違いがあるかどうかを見るために、国籍を従属変数にし、一般線型モデルの多変量分析を行った。「被験者間結果の検定」では各因子の国籍の有意確率を見た。なお、有意確率が 5%未満あるいは 10%未満の場合、相互作用はある、つまり２つの国の間の違いはあるといえる。

最後に、仮説の確認のため、因子得点を使った散布図を作り、「ものに対する考え」の因子と「普段の態度・行動」の因子の間の相関を見た。「ものに対する考え」の尺度が増加する時、「普段の態度・行動」の尺度も増加する傾向が見られた場合、2 つの尺度の間では正の相関があるという。相関係数は 5%未満の場合、相関はあるといえる。なお、相関係数は 1%未満の場合、相関は強いといえる。2 つのグループの間では、有意水準の正の相関（小寺、2013）がみられた場合、ものに対する態度がいいほど、普段の態度・行動もよくなるという仮説が正しいといえる。

第 3 章　調査結果および考察

3.1 因子分析によってできた新しい尺度

因子分析を行った結果、「ものに対する考え」の設問から 8 因子、「普段の態度・行動」の設問から 4 因子ができた。因子それぞれに名前をつけ、新しい尺度として使った。（表 3、表 4）

表 3　因子分析後のものに対する考えの尺度

	もの気遣い	美意識	アニミズム	もったいない	身の回りの清潔性	修理意識	ジェンダーフリー意識	品質意識	共通性
Q30 他の人がものを投げたり、そまつに扱ったりなど、ものに対して不適切な態度をとったら、注意をする	0.71	0.1	0.08	0.18	0.04	−0.05	−0.2	0.19	0.64
Q5 一回使った服をすぐ洗う	0.65	0	0.23	−0.2	0.05	0.16	0.22	0.03	0.6
Q28 日常生活の中で、ものに関する話題が多いと思う	0.59	0.31	0.13	−0.06	0.21	0.06	−0.18	0.08	0.57
Q4 普段、ファイルや本のカバー、筆箱など、汚れや破損を防ぐためのものを使う	0.53	0.02	0	0.25	0.27	0.05	0.1	−0.11	0.45
Q3 普段、食べ残した食べ物や切った野菜などを冷蔵庫に入れる際に、腐らないようにラップや容器を使う	0.52	0.1	−0.06	0.36	0.17	0.15	0.2	−0.21	0.73
Q29 他の人がものを投げたり、そまつに扱ったりなど、ものに対して不適切な態度をとったら、不快感を感じる	0.52	0.37	0.33	0.39	−0.13	−0.2	0	0.05	0.56
Q11 普段、身の回りのもののデザインを意識する	0.13	0.74	−0.07	0.02	0.11	0.24	0.1	0.02	0.65
Q14 スーパー等に行く際に、品物がきちんと並んでいててほしいと思う	0.13	0.68	0.14	−0.01	0.13	0.08	−0.05	−0.13	0.55
Q12 周りにあるきれいなものや醜いものに気付く	−0.06	0.63	−0.02	0.11	0.23	0.05	−0.03	0.3	0.57
Q27 いいものを見た時に、他の人に話し上げようと思う	0.3	0.55	0.26	0.14	0	−0.14	0.05	0.21	0.56
Q16 ものを丁寧に扱うことが大切だと思う	0.24	0.4	0.38	0.33	0.13	−0.06	0.11	−0.07	0.52
Q24 普段よく使っているものに対して感謝の気持ちを感じる	0.11	0.07	0.77	0.07	0.06	0.2	−0.03	0	0.67
Q9 ものには命や魂(感情)があると思う	0.09	−0.13	0.72	0	0.17	0.12	0.03	0	0.59
Q23 ものに対する愛着性を感じる	0.01	0.25	0.66	0.34	−0.02	−0.03	0.05	0.05	0.62
Q10 ものを大切に扱うことによって自分にいいことが起こると思う	0.46	0.29	0.55	0.04	−0.09	−0.08	0.17	−0.17	0.69
Q22 資源を使いすぎないように意識する	0.08	0	0.07	0.65	0.04	0.15	0	0	0.46
Q15 普段、ものを丁寧に扱うように意識する	0.04	0.02	0.34	0.62	0.28	−0.05	−0.27	0.05	0.67
Q21 買ったもの/食べ物を使わなかったら、もったいないと思う	0.2	0.27	0.12	0.54	0	0.1	0.4	0.02	0.6
Q13 自分の部屋の服や本、身のまわりのもの等の整理をする	0.15	0.13	−0.01	0.08	0.72	−0.02	−0.26	0.14	0.67
Q17 高い頻度で掃除をする	0.13	0	0.1	−0.15	0.71	0.03	0.08	0.12	0.58
Q18 周りに汚いものを置かないように意識する	0	0.31	0.05	0.21	0.68	0.06	−0.04	0.14	0.63
Q6 普段、ティッシュペーパーやウェットシート等持ち歩く	0.11	0.13	0.1	0.19	0.54	0.05	0.11	−0.26	0.46
Q25 壊れたものを直すべきだと思う	0.06	0.07	0.13	0.16	−0.04	0.87	0	−0.06	0.83
Q26 壊れたものの修理をする	0.03	0.13	0.08	0.03	0.13	0.81	−0.01	0.15	0.73
Q8 ものを丁寧に扱うことが男らしくないと思わない	0.02	0.08	−0.05	0.22	0	0.06	0.73	−0.06	0.6
Q7 男より女のほうがものを大切にすると思わない	0	−0.07	0.15	−0.26	−0.05	−0.12	0.68	0.07	0.58
Q19 ものを買う際に、値段より品質のうほうが重視する	0.03	0.01	−0.07	−0.16	0.17	0.02	−0.01	0.76	0.65
Q20 ものを買う際に、それを長く使えるかどうか等、品質を意識する	0.05	0.2	0.1	0.42	0	0.1	0.03	0.66	0.68
回転後の寄与率	9.56	9.33	9.11	8.08	8.06	6.34	5.69	5.39	

表 4　因子分析後の普段の行動・態度

	他の人・行動・言葉に気を遣う	食べ物・健康に気をつかう	服装・美容に気をつかう	環境に気をつかう	共通性
Q35 普段、行動した後に、自分の行動が適切だったかどうか振り返っている	0.76	0.05	0	−0.02	0.58
Q34 普段、行動する前に、自分の行動が適切かどうか考えてから行動する	0.69	0.08	0.04	0.07	0.49
Q37 普段、自分の言葉遣いに気をつけている	0.68	0.14	0.04	0.17	0.49
Q36 普段、自分の行動をもっと適切にするためにどうすればいいか考えている	0.64	0.29	−0.01	0	0.5
Q32 他の人を快適に感じさせるように気をつけている	0.59	0.08	0.32	0.25	0.53
Q31 他の人に気を遣うほうだと思う	0.56	−0.06	0.37	0.24	0.51
Q33 他の人を傷つけないように気をつけている	0.52	0.14	0.16	0.43	0.51
Q38 普段、汚い言葉を使わないように気をつけている	0.41	0.3	−0.08	0.24	0.33
Q44 意識して野菜や果物等、健康にいいものを食るように意識している	0.04	0.89	0.08	0.8	0.81
Q43 普段、健康に気をつけて食事をしている	0.11	0.84	0.13	0.14	0.76
Q46 自分の健康に気をつけていると思う	0.17	0.77	0.3	0.15	0.74
Q45 規則正しい生活を心がている	0.27	0.68	0.1	0.13	0.57
Q42 普段、自分の服装に気をつけている	0.07	0.19	0.88	0.06	0.83
Q41 普段、自分の身だしなみを整えることに気をつけている	0.08	0.23	0.85	0.06	0.8
Q40 環境を大事にすることは大切だと思う	0.03	0.09	0.23	0.78	0.68
Q39 節電や節水、ポイ捨てしない等、環境を大事にするための行動をするように意識する	0.14	0.27	−0.09	0.76	0.69
回転後の寄与率	20.21	18.72	12.5	10.41	

まず「ものに対する考え」の因子について説明する。1 つ目の因子に「ものきづかい」という名前をつけた。その因子に入った設問は、「汚れや破損を防ぐ意識」（全門）、「もの

のそまつな扱いに対して抵抗感を持つ」（全門）、「清潔性」（1 問：一回洗った服を洗うかどうか）、「もの話題の日常性」（1 問：日常生活でものの話題が多いかどうか）。2 つ目の因子は、「美意識」。元々の「美意識」（全門）尺度の他、「もの話題の日常性」（1 問：いいものを見た時に他の人に話してあげようと思うかどうか）、「整理意識」（1 問：スーパーなどで品物がきちんと並んでいてほしいと思うかどうか）、「丁寧性」（1 問：ものを丁寧に扱うのが大切だと思うかどうか）の設問が入っている。3 つ目の因子を「アニミズム」と名づけた。「アニミズム」（全門）と「愛着性」（全門）の設問が含まれている。4 つ目の因子には「もったいない」（全門）と「丁寧性」（1 問：ものを丁寧に扱うように意識するかどうか）の設問がふくまれており、「もったいない」と呼んだ。5 つ目の因子は、「身の周りの清潔性」になった。「きれい好き」（全門）、「整理意識」（1 問：部屋のものの整理をするかどうか）、「清潔性」（1 問：普段ティッシュペーパーやウエットシートなどを持ち歩いているかどうか）の設問が入っている。6・7・8 つ目の因子をそれぞれ「修理意識」、「ジェンダーフリー意識」、「品質意識」と呼び、各因子には元々の同名尺度の全問が含まれている。次は「普段の態度・行動」因子について述べる。1 つ目の因子は「他の人に気を遣う」（全門）、「自分の行動に気をつかう」（全門）、「言葉に注意を払う」（全部）からできており、「他の人・行動・言葉に気をつかう」と名づけた。2 つ目の因子には「食べ物に気をつかう」と「健康に気をつかう」尺度の全問が含まれていたので、「食べ物・健康に気をつかう」と呼んだ。3 つ目と 4 つ目の因子それぞれは元々の「服装、美容に気をつかう」と「環境に気をつかう」尺度からできていたので、名前はそのままにした。

3.2 日本とロシアの比較

幹葉図で示したロシアと日本の各尺度の因子比較は以下の通りである。

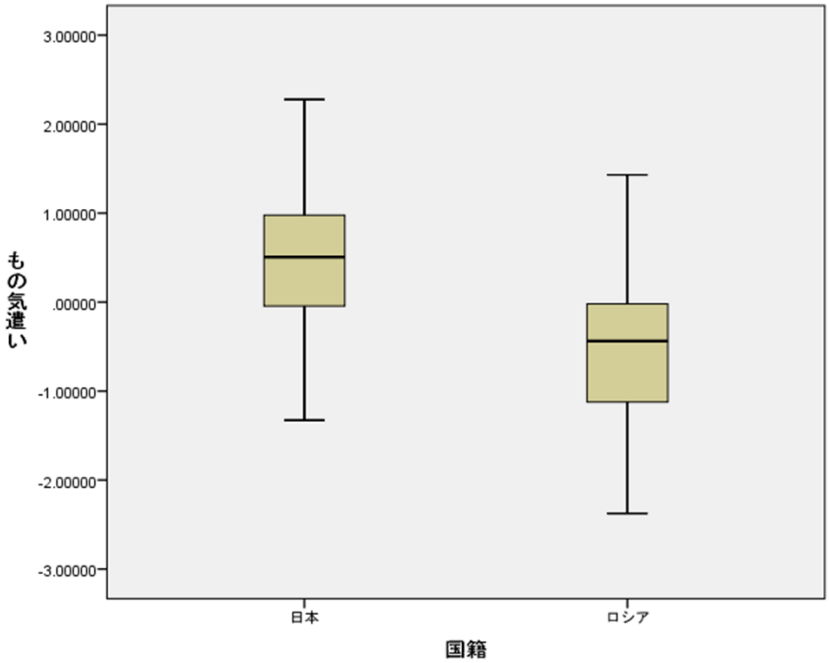


図 1　もの気遣い

図 1 と表 5 を見ると、「もの気遣い」尺度について、ロシアと日本では有意な違いが見

られた（$F_{1,160} = 68.17, p < 0.001$）。また、日本の平均値はロシアより高かった（日本 0.52、ロシア-0.5）。

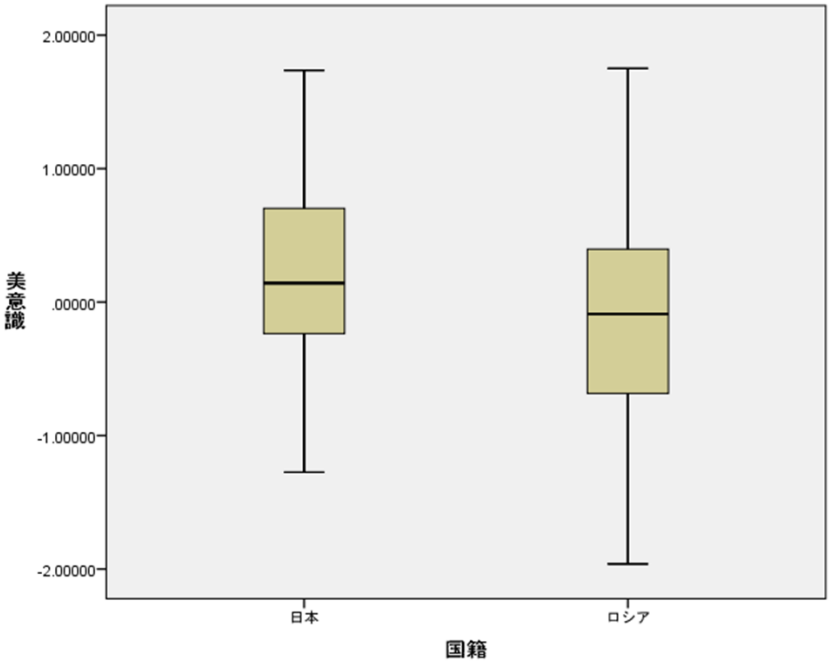


図 2　美意識

図 2 と表 5 を見ると、「美意識」尺度について、日本とロシアで有意な違いが見られた（$F_{1,157} = 9.91, p < 0.01$）。また、日本の平均値はロシアより高かった（日本 0.23、ロシア-0.15）。

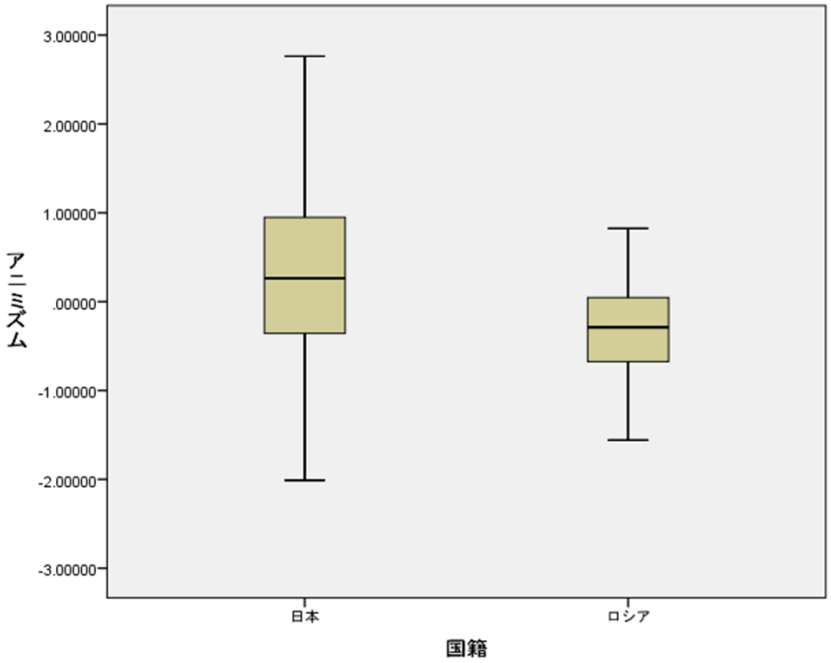


図 3　アニミズム

図 3 と表 5 を見ると、「アニミズム」尺度について、日本とロシアで有意な違いが見られた（$F_{1,149} = 21.63$, $p < 0.001$）。また、日本の平均値はロシアより高かった（日本 0.28、ロシア-0.32）。

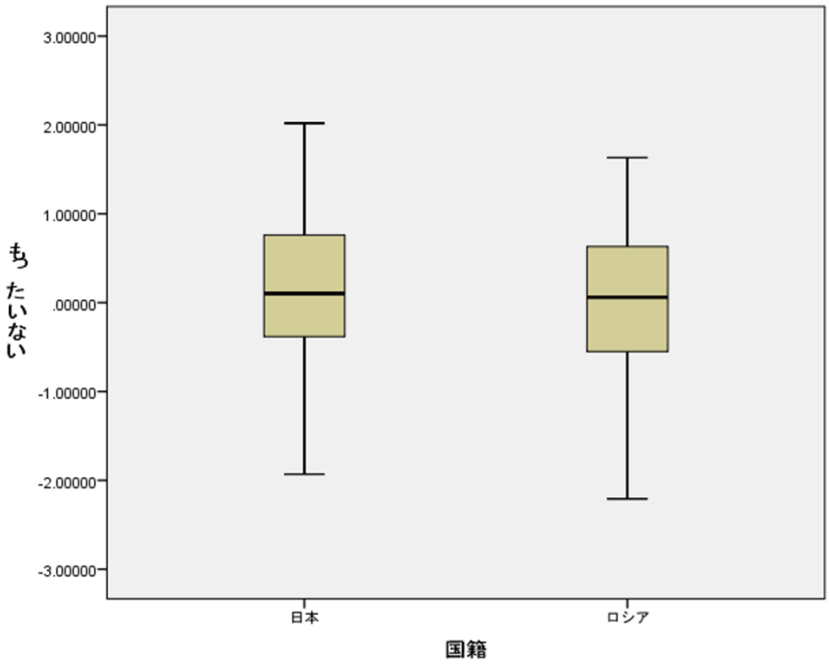


図 4　もったいない

図 4 と表 5 を見ると、「もったいない」尺度について、日本とロシアで有意な違いが見られた。（$F1,157 = 2.03$, $p < 0.1$）また、日本の平均値はロシアより高かった（日本 0.19、ロシア 0）。

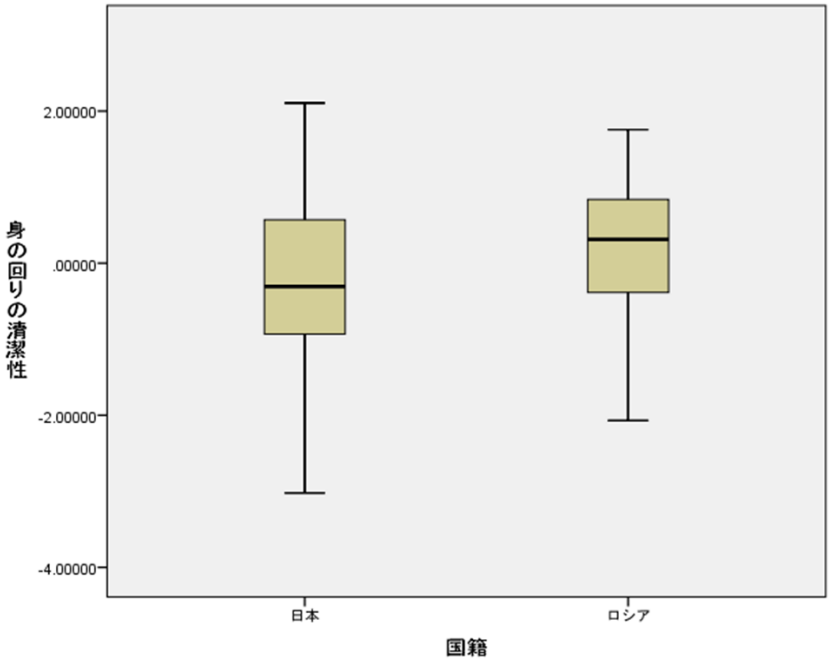


図 5　身の回りの清潔性

図 5 と表 5 を見ると、「身の回りの清潔性」尺度について、日本とロシアで有意な違いが見られた（$F_{1,162} = 9{,}85$, $p < 0.01$）。また、日本の平均値はロシアより低かった（日本-0.23、ロシア 0.24）。

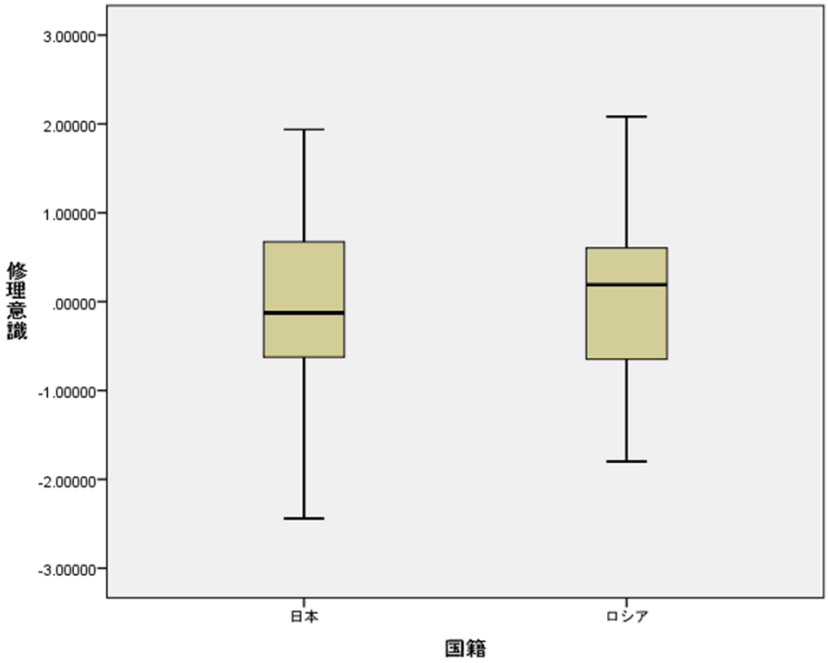


図 6　修理意識

図 6 と表 5 を見ると、「修理意識」尺度について、日本とロシアで有意な違いが見られなかった。（F1,159 = 0, N.S.）

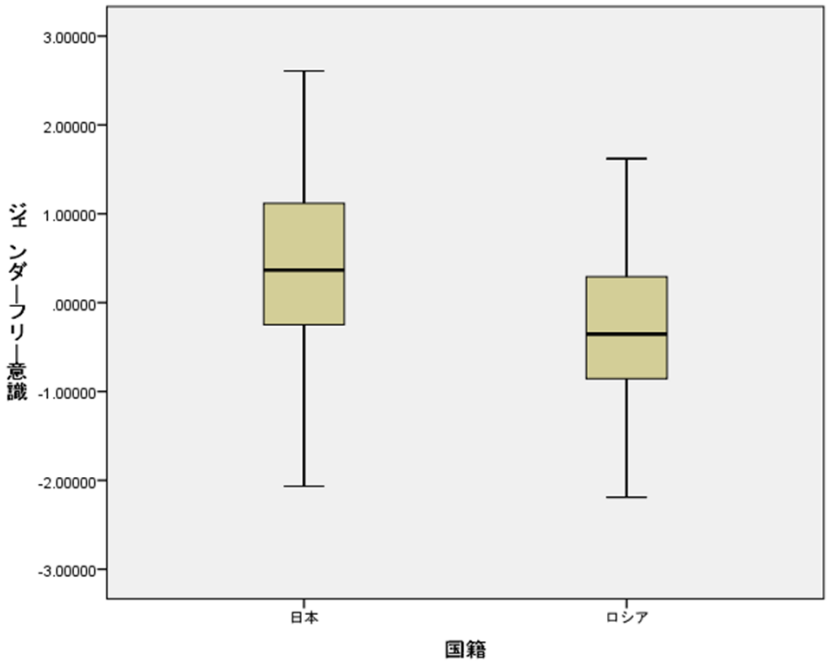


図 7 ジェンダーフリー意識

図 7 と表 5 を見ると「ジェンダーフリー」尺度に関して、日本とロシアで有意な違いが見られた（$F_{1,159} = 28.2$, $p < 0.001$）。また、日本の平均値はロシアより高かった（日本の平均値は 0.40、ロシア-0.29）。

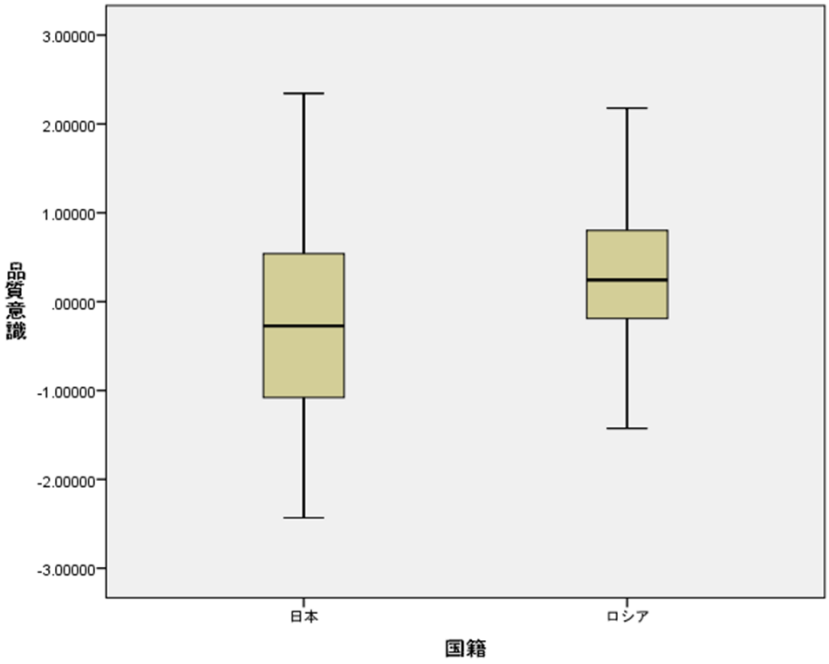


図 8　品質意識

図 8 と表 5 を見ると、「品質意識」について、日本とロシアで有意な違いが見られた（$F_{1,160} = 11.38$）。また、日本の平均値はロシアより低かった（日本-0.22、ロシア

0.28)。

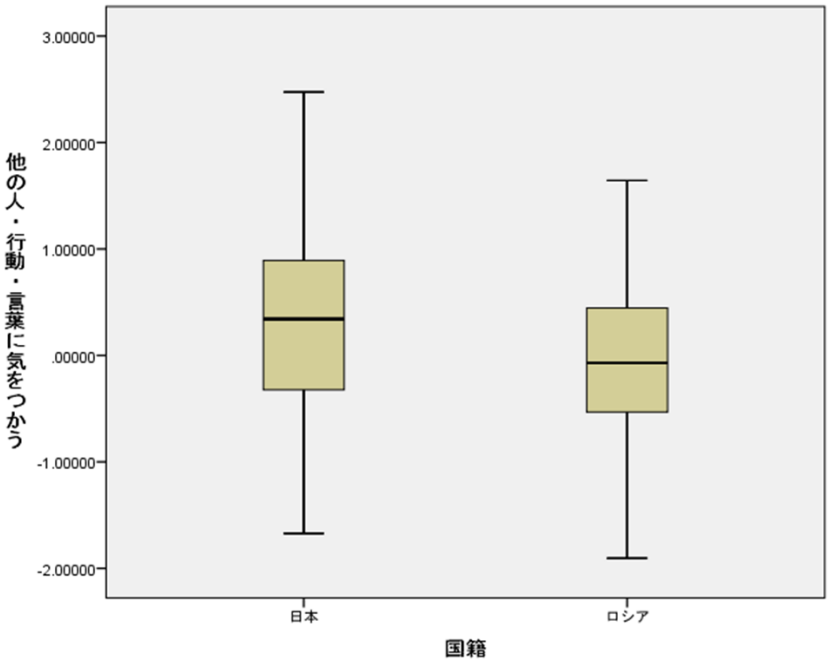


図 9　他の人・行動・言葉に気をつかう

図 9 と表 5 を見ると、「他の人・行動・言葉」尺度について、日本とロシアで有意な違いが見られた（$F_{1,157} = 6.39$, $p < 0.01$）。また、日本の平均値はロシアより高かった（日 0.27、ロシア-0.05）。

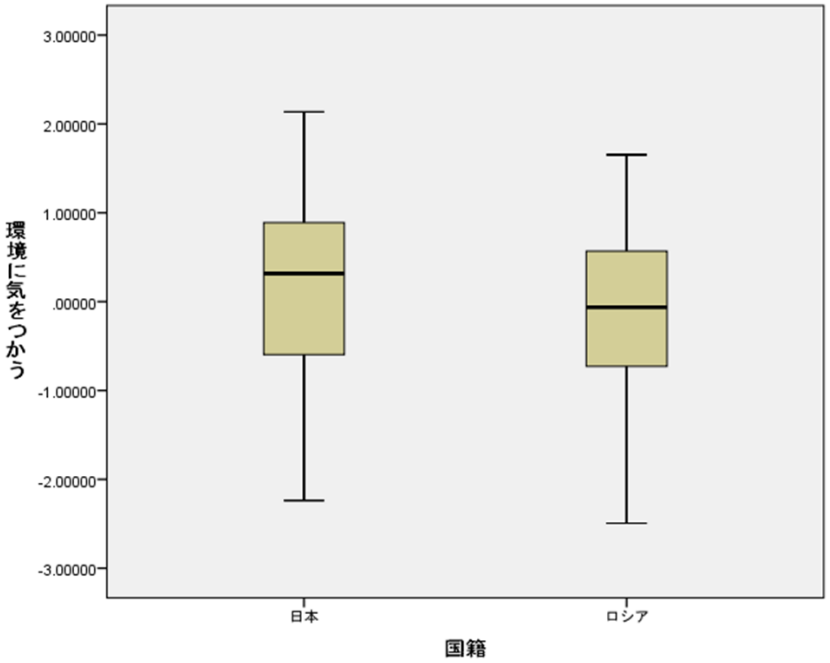


図 10　環境に気をつかう

図 10 と表 5 を見ると、「環境に気をつかう」尺度について、日本とロシアで有意な違

いが見られた（$F_{1,161} = 3.22, p < 0.10$）。また、日本の平均値はロシアより高かった（日本 0.15、ロシア-0.11）。

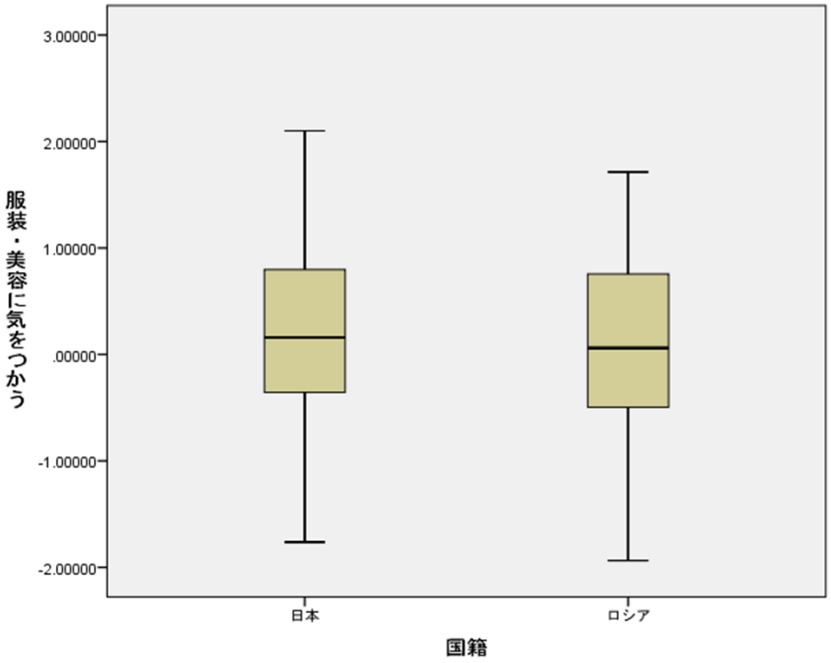


図 11　服装・美容に気をつかう

図 11 と表 5 を見ると、「服装・美容」尺度について、日本とロシアで有意な違いが見られなかった（$F_{1,158} = 0.01$, N.S.）

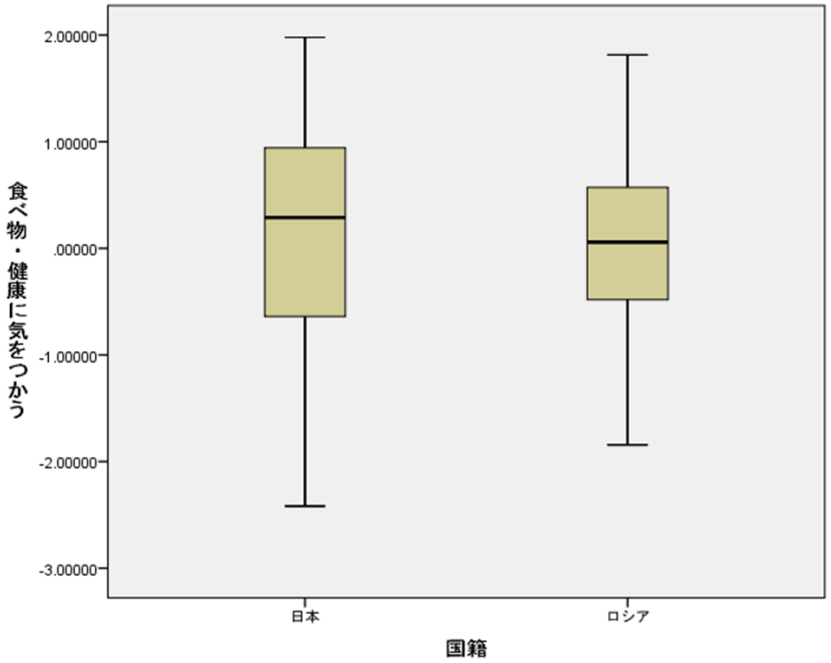


図 12　食べ物・健康に気をつかう

図 12 と表 5 を見ると、「食べ物・健康に気をつかう」尺度について、日本とロシアで

有意な違いが見られなかった（$F_{1,158} = 0.39$, N.S.）

表 5　日本とロシアの分散分析結果

ソース	タイプ III 平方和	df	平均平方	F	有意確率
もの気遣い	43.004	1	43.004	68.178	0
美意識	5.968	1	5.968	9.918	0.002
アニミズム	14.212	1	14.212	21.633	0
もったいない	1.444	1	1.444	2.034	0.156
身の回りの清潔性	9.347	1	9.347	9.855	0.002
修理意識	0	1	0	0	0.99
ジェンダーフリー意識	19.76	1	19.76	28.205	0
品質意識	10.405	1	10.405	11.384	0.001
他の人・行動・言葉に気をつかう	4.546	1	4.546	6.393	0.012
環境に気をつかう	3.076	1	3.076	3.222	0.075
服装・美容に気をつかう	0.009	1	0.009	0.013	0.91
食べ物・健康に気をつかう	0.329	1	0.329	0.391	0.533

上記の幹葉図のデータをまとめると、「身の周りの清潔性」や「品質意識」尺度以外に、全部の尺度の得点は日本のほうがロシアより高かった。一般線型モデルの多変量分析の国籍の有意確率を見ると、「食べ物・健康に気をつかう」、「服装・美容に気をつかう」、「修理意識」の尺度は有意ではない。つまり、こちらの尺度の場合、国籍別で有意な違いはない。一方、「環境に気をつかう」や「もったいない」尺度は 10%未満水準で有意、他のすべての尺度は 5%水準で有意であるという結果になった。

表 6　男女因子平均比較

	日本・男	日本・女	ロシア・男	ロシア・女
もの気遣い	0.47	0.53	−0.83	−0.38
美意識	0.06	0.31	−0.53	0
アニミズム	0.37	0.24	−0.45	−0.27
もったいない	0.27	0.15	−0.33	0.12
身の回りの清潔性	−0.53	−0.07	−0.42	0.48
修理意識	0.04	0.02	0.36	−0.08
ジェンダーフリー意識	0.46	0.37	−0.48	−0.21
品質意識	−0.13	−0.27	0.15	0.32

表 7 日本　男女分散分析結果　　表 8　ロシア　男女分散分析結果

	F	有　意確率
もの気遣い	0.12	0.72
美意識	2.11	0.15
アニミズム	0.36	0.54
もったいない	0.37	0.54
身の回りの清潔性	3.6	0.06
修理意識	0	0.93
ジェンダーフリー意識	0.21	0.64
品質意識	0.3	0.58

	F	有意確率
もの気遣い	5.3	0.02
美意識	7.01	0.01
アニミズム	1.38	0.24
もったいない	4.73	0.03
身の回りの清潔性	22.2	0
修理意識	4.84	0.03
ジェンダーフリー意識	1.89	0.17
品質意識	0.85	0.35

上記の表 6 は「ものに対する考え」の因子の平均を国別・男女別で見たものである。また、各因子について、日本とロシアで男か女、どちらのほうが因子の平均得点が高かったのか色で強調した。表 7 ではと 8 で日本とロシアそれおれで「ものに対する考え」尺度の得点が男女で違うかどうか見た。なお、男女の得点は有意確率で違う場合、色で示したまた表 7 と 8 をまとめると、日本の場合、「身の回りの清潔性」尺度だけ男女で有意な確立で違う（$F_{1,81} = 3.6, p < 0.1$）。ロシアの場合、「もの気遣い」（$F_{1,79} = 5.3, p < 0.05$）、「美意識」（$F_{1,79} = 7.01, p < 0.01$）、「もったいない」($F_{1,78} = 4.73, p < 0.05$)、「身の回りの清潔性」（$F_{1,79} = 22.2, p < 0.01$）、「修理意識」（$F_{1,78} = 4.84, p < 0.05$）尺度の場合、男女の違いは有意な水準で異なる。

3.3　ものに対する考えと他の生活の面の関連性

ここでは「ものに対する考え」尺度の因子と「普段の態度・行動」尺度の因子の間の関連性（相関分析）について説明する。

（1）　日本

日本の場合、次の尺度の間で正の相関が見られた。

1）「もの気遣い」と「服装・美容に気をつかう」の相関

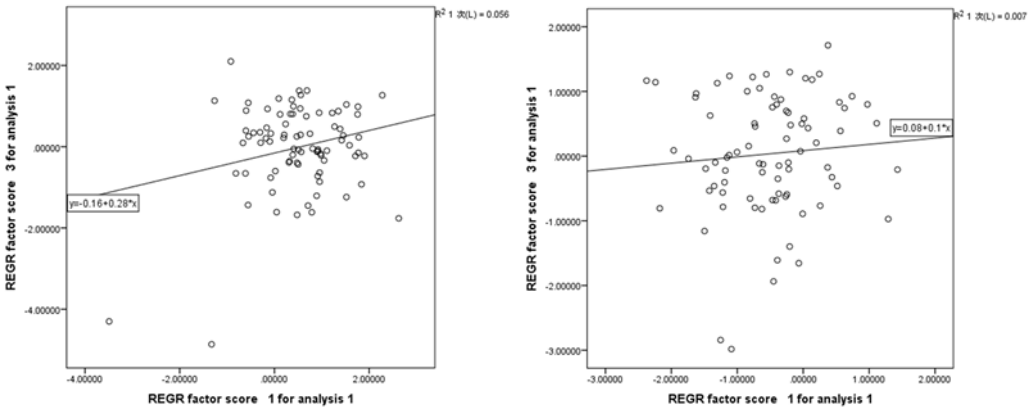


図 13（左）日本「もの気遣い」と「服装・美容に気をつかう」の相関
図 14（右）ロシア　「もの気遣い」と「服装・美容に気をつかう」の相関

図 13 と 14 を見ると、「もの気遣い」と「服装・美容に気をつかう」尺度の間、日本の場合は正の相関が見られ（$r = 0.237, p < 0.05$）、ロシアの場合は相関が見られなかった（$r = 0.084$, N.S.）。

2)「アニミズム」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の相関

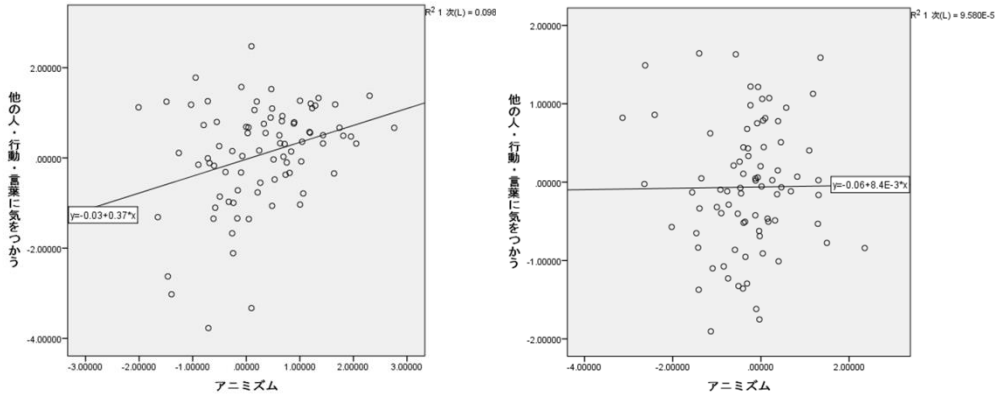


図 15（左）日本「アニミズム」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の相関
図 16（右）ロシア「アニミズム」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の相関

図 15 と 16 を見ると、「アニミズム」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」尺度の間、日本の場合は正の相関が見られ（$r = 0.313, p < 0.01$）、ロシアの場合は相関が見られなかった（$r = 0.01$, N.S.）

3)「アニミズム」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関

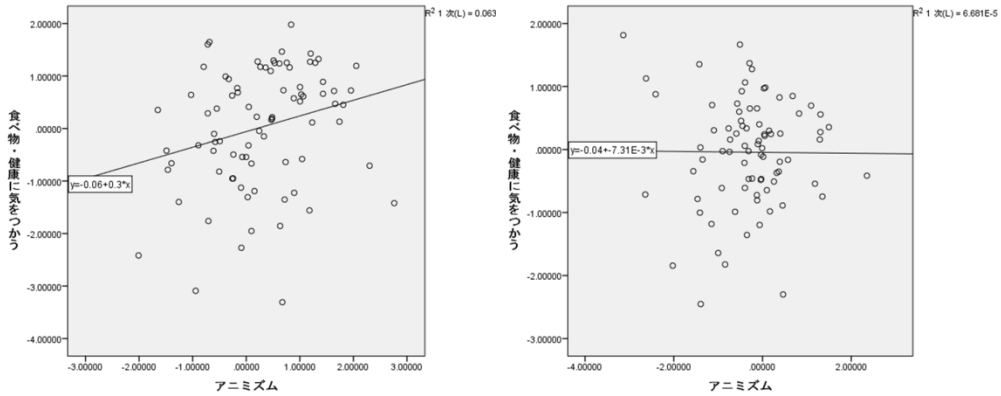
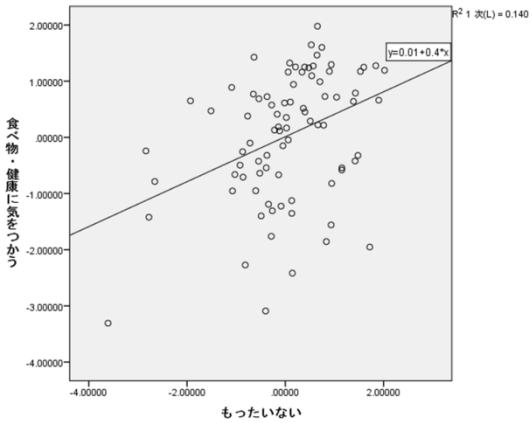


図 17（左）日本「アニミズム」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関
図 18（右）ロシア「アニミズム」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関

図 17 と 18 を見ると、「アニミズム」と「食べ物・健康に気をつかう」尺度の間、日本の場合は正の相関が見られ（$r = 0.251, p < 0.05$）、ロシアの場合は相関が見られなかった（$r = -0.008$, N.S.）

4)「もったいない」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関



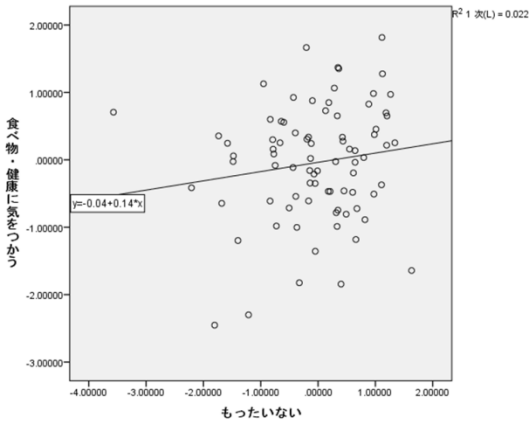
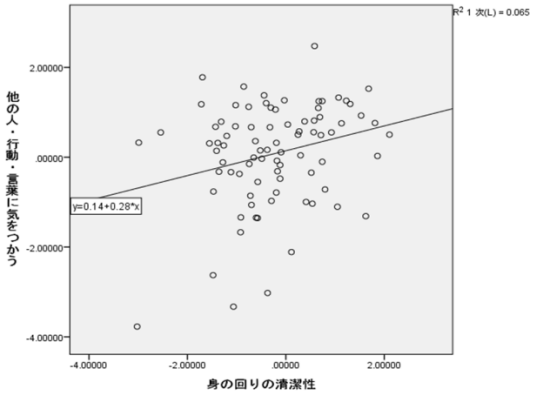


図 19（左）日本「もったいない」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関
図 20（右）ロシア「もったいない」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関

図 19 と 20 を見ると、「もったいない」と「食べ物・健康に気をつかう」尺度の間、日本の場合は正の相関が見られ（$r = 0.374, p < 0.01$）、ロシアの場合は相関が見られなかった（$r = 0.149$, N.S.）。

5)「身の回りの清潔性」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の相関



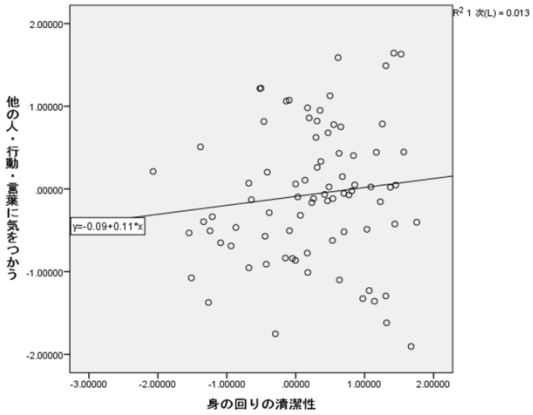
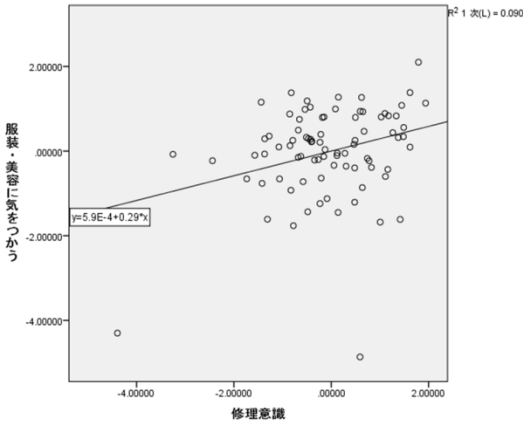


図 21（左）　日本　「身の回りの清潔性」と「他の人・行動・言葉」の相関
図 22（右）　ロシア「身の回りの清潔性」と「他の人・行動・言葉」の相関

図 21 と 22 を見ると、「身の回りの清潔性」と「他の人・行動・言葉」尺度の間、日本の場合は正の相関が見られ（$r=.256, p < 0.05$）、ロシアの場合は相関が見られなかった（$r = 0.115$, N.S.）

6)「修理意識」と「服装・美容に気をつかう」の相関



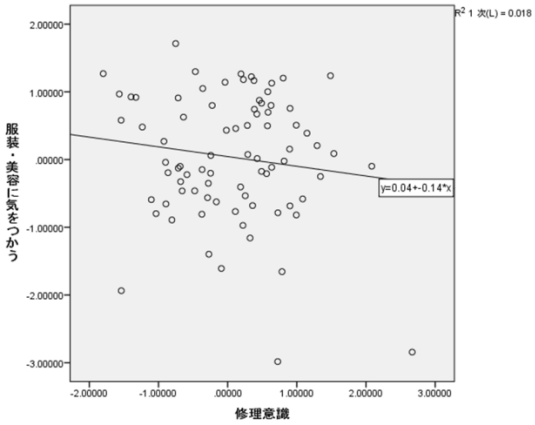


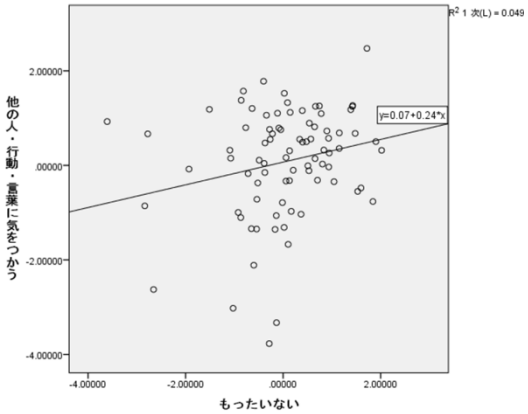
図 23（左）日本「修理意識」と「服装・美容に気をつかう」の相関
図 24（右）ロシア「修理意識」と「服装・美容に気をつかう」の相関

図 23 と 24 を見ると、「修理意識」と「服装・美容に気をつかう」尺度の間、日本の場合は正の相関が見られ（$r = 0.299, p < 0.01$）、ロシアの場合は相関が見られなかった（$r = -0.135$, N.S.）

(2)　両国

日本とロシアの両国では次の尺度の間で正の相関が見られた。

1)「もったいない」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の相関



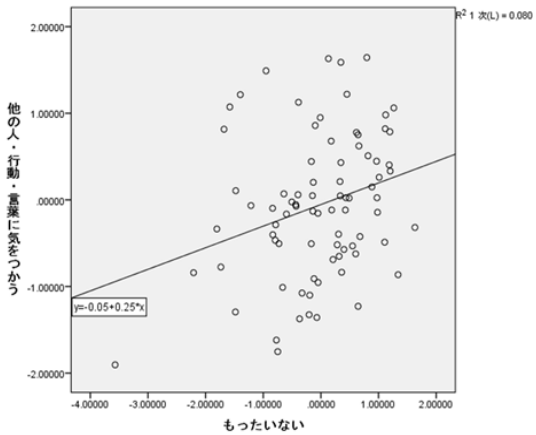
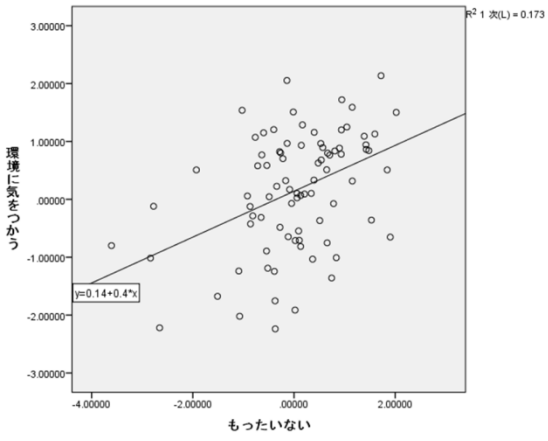


図 25（左）日本「もったいない」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の相関
図 26（右）ロシア「もったいない」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の相関

図 25 と 26 を見ると、「もったいない」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」尺度の間、日本の場合は正の相関が見られ（$r = 0.222, p < 0.05$）、ロシアの場合も正の相関が見られた（$r = 0.282, p < 0.05$）。

2)「もったいない」と「環境に気をつかう」の相関



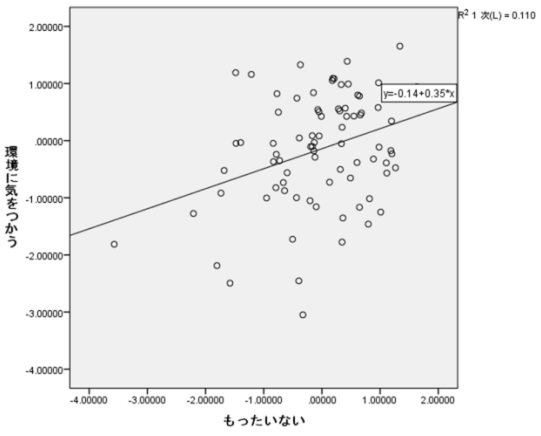
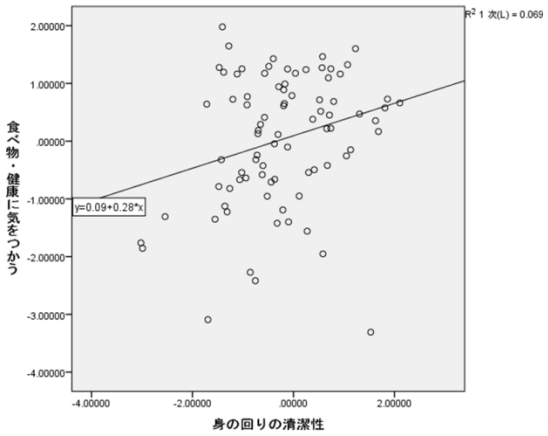


図 27（左）日本「もったいない」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の相関
図 28（右）ロシア「もったいない」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の相関

図 27 と 28 を見ると、「もったいない」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」尺度の間、日本とロシアの場合、正の相関が見られた（日本 $r = 0.416, p < 0.01$、ロシア $r = 0.332, p < 0.01$）。

3）「身の回りの清潔性」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関



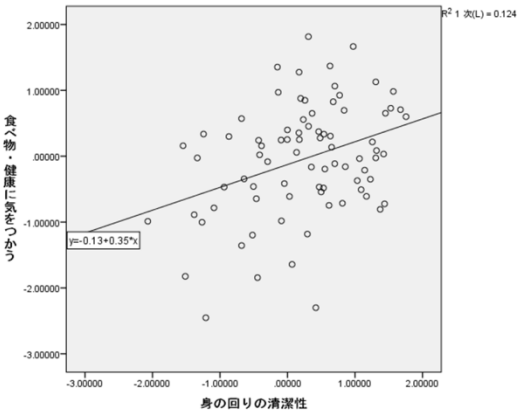


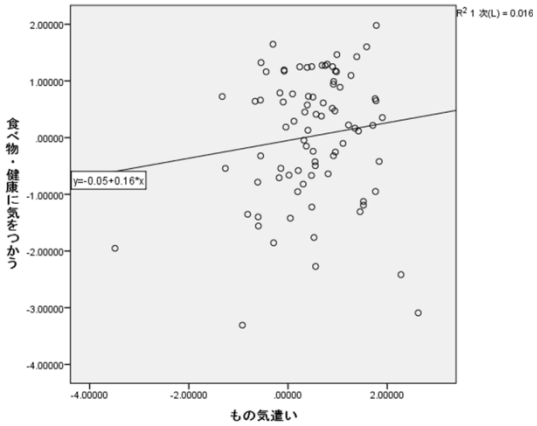
図 29（左）日本「身の回りの清潔性」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関
図 30（右）ロシア「身の回りの清潔性」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関

図 29 と 30 を見ると、「身の回りの清潔性」と「食べ物・健康に気をつかう」尺度の間、日本とロシアの場合、正の相関が見られた（日本 $r = 0.262, p < 0.05$、ロシア $r = 0.353, p < 0.01$）

（3）ロシア

ロシアの場合、次の尺度の間で正の相関が見られた。

1）「もの気遣い」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関



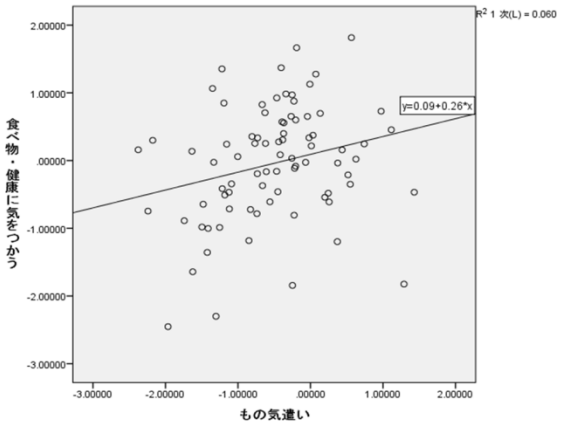
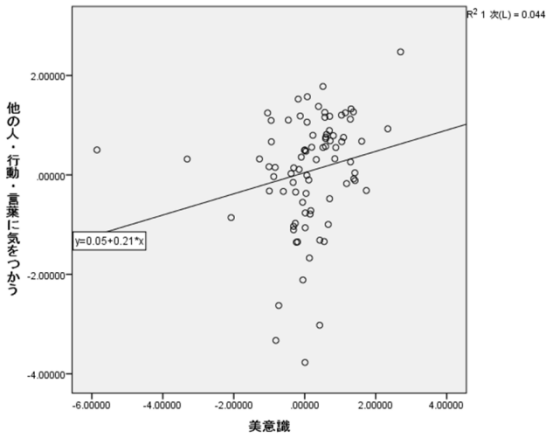


図 31（左）日本「ものきづかい」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関
図 32（右）ロシア「ものきづかい」と「食べ物・健康に気をつかう」の相関

図 31 と 32 を見ると、「ものきづかい」と「食べ物・健康に気をつかう」尺度の間、日本の場合は相関が見られなく（$r = 0.127$, N.S.）、ロシアの場合は正の相関が見られた（$r = 0.246$, $p < 0.05$）

2）「美意識」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の関連性



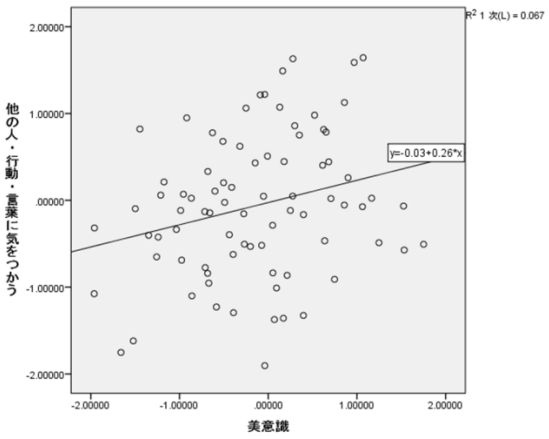
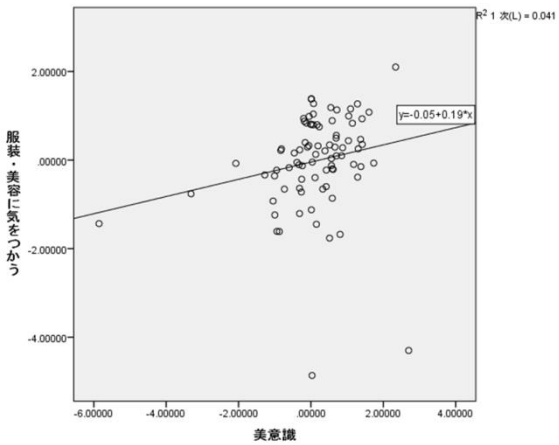


図 33（左）日本「美意識」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の相関
図 34（右）ロシア「美意識」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」の相関

図 33 と 34 を見ると、「美意識」と「他の人・行動・言葉に気をつかう」尺度の間、日本の場合は相関が見られなく（$r = 0.209$, N.S.）、ロシアの場合は相関が見られた（$r = 0.259$, $p < 0.05$）。

3）「美意識」と「服装・美容に気をつかう」の相関



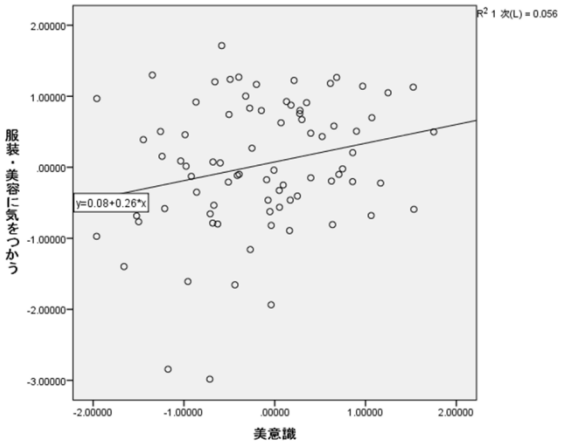
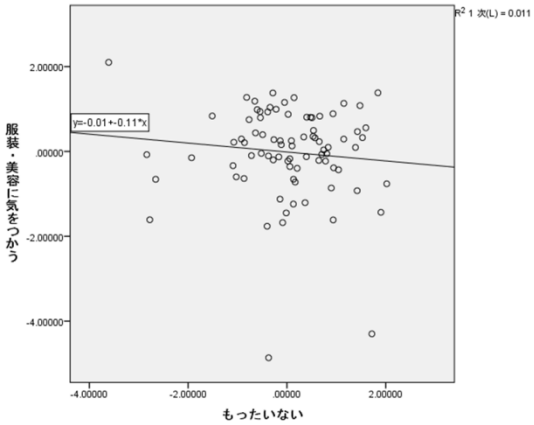


図 35（左）日本「美意識」と「服装・美容に気をつかう」の相関
図 36（右）ロシア「美意識」と「服装・美容に気をつかう」の相関

図 35 と 36 を見ると、日本「美意識」と「服装・美容に気をつかう」尺度の間、日本の場合は相関が見られなく（$r = 0.201$, N.S.）、ロシアの場合は正の相関が見られた（$r = 0.236$, $p < 0.05$）。

4）「もったいない」と「服装・美容に気をつかう」の相関



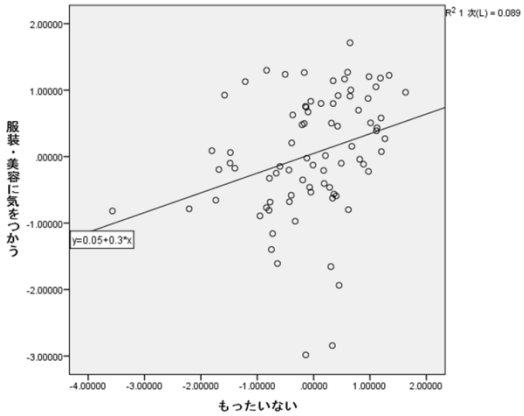
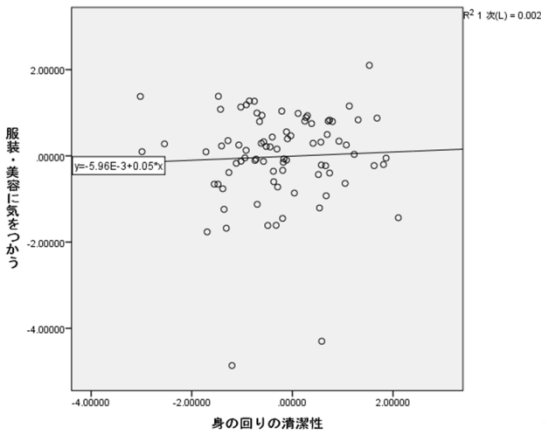


図 37（左）日本「もったいない」と「服装・美容に気をつかう」の相関
図 38（右）ロシア「もったいない」と「服装・美容に気をつかう」の相関

図 37 と 38 を見ると、「もったいない」と「服装・美容に気をつかう」尺度の間、日本の場合は相関が見られなく（$r = -0.103$, N.S.）、ロシアの場合は正の相関が見られた（$r = 0.298$, $p < 0.01$）、

5）「身の回りの清潔性」と「服装・美容に気をつかう」の相関



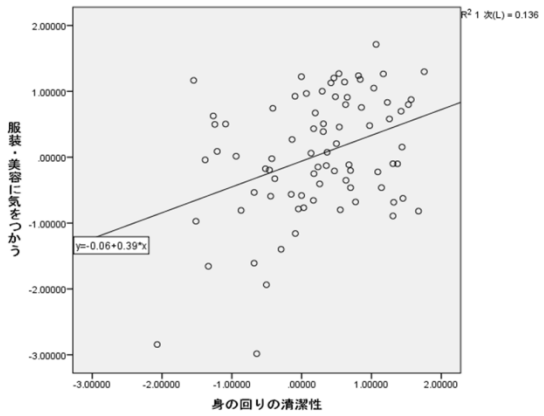


図 39（左）日本「身の回りの清潔性」と「服装・美容に気をつかう」の相関
図 40（右）ロシア「身の回りの清潔性」と「服装・美容に気をつかう」の相関

図 39 と 40 を見ると、「身の回りの清潔性」と「服装・美容に気をつかう」尺度について、日本の場合は相関がなく（$r = 0.047$, N.S.）、ロシアの場合は正の相関が見られた（$r = 0.368$, $p < 0.01$）。

表 9　「ものに対する考え」と「普段の行動・態度」尺度の相関分析結果

日本	両国	ロシア
1. もの気遣い → 服装・美容に気をつかう（図13）	もったいない → 他の人・行動・言葉に気をつかう（図25、図26）	もの気遣い → 食べ物・健康に気をつかう（図32）
2. アニミズム → 他の人・行動・言葉に気を遣う（図15）	もったいない → 環境に気をつかう（図27、図28）	美意識 → 他の人・行動・言葉に気を遣う（図34）
3. アニミズム → 食べ物・健康に気をつかう（図17）	身の回りの清潔性 → 食べ物・健康に気をつかう（図29、図30）	美意識 → 服装・美容に気をつかう（図36）
4. もったいない → 食べ物・健康に気をつかう（図19）		もったいない → 服装・美容に気をつかう（図38）
5. 身の回りの清潔性 → 他の人・行動・言葉に気をつかう（図21）		身の回りの清潔性 → 服装・美容に気をつかう（図40）
6. 修理意識 → 服装・美容に気をつかう（図23）		

3.4 考察

(1) ものに対する考えについて

調査分析の過程では、因子分析を行った結果、仮設や先行研究の分析の時点に作った「ものに対する考え」の 14 の尺度を 8 尺度にまとめることができた。また、日本とロシアの比較分析の結果、その新しい 8 尺度の内、5 の尺度の得点は日本のほうが有意な確立で高く、1 の尺度では国の間で有意な違いは見られなく、2 つの尺度はロシアの得点が高かった。その結果について以下にて考察する。

ロシアとの比較を通じて、「ものに対する考え」の新しい 8 の尺度の内 5 の尺度の因子得点は有意確率でロシアより高かったので、その 5 の尺度は日本のものの扱い方の特徴であるといえる。その 1 つ目の特徴は「もの気遣い」である。もの気遣いとは、もの汚れや破損を防ぐ意識を持ち、もののそまつ扱いに対して抵抗感をもち、日常生活でよくもののこと話し、一回使った服でもすぐ洗う。ものの存在を意識し、ものに集中し、ものを大事にする意味を持っている。2 つ目の特徴は「美意識」である。もののデザインやきれいなや醜いものに気づき意識し、いいものを見た時に友達に話し上げようと思うこと、店の品物のきちんとした整理を大事にすること、ものの大切な扱いは大事であることの性質を持っている。3 つ目の特徴は「アニミズム」であり、ものに魂や感情があることを認め、ものをよく扱ったら自分にもいいことが起こると信じ、ものに対して愛着性や感謝の気持ちを持っていることを意味する。4 つ目の特徴は「もったいない」である。資源を大切に使い、ものを使わなかったら「もったいない」と思い、ものに対する丁寧な扱い意識を持つことだ。最後の特徴は「ジェンダーフリー」である。女のほうがものを大切に扱うことや丁寧な扱いは男らしくないであると思わないことを意味する。

そして、表 6・7・8 でロシアと日本の「ものに対する考え」の男女別の因子平均得点の違いを見ると、ロシアのほうが男女の違いが大きいことがわかる。前述したように、ロシアでは、女はものを大切に扱うべきであり、男が必ずしもそうでないというイメージが強い。つまり、ロシアでは、ものの扱いに関して、ジェンダーの差が大きい。上記の表からもそのような結果が読み取れる。また、ロシアの場合、修理意識の平均得点は男のほうが多きいが、それもロシアはものに対して「フリー」ではいことを示す。なんでかというと、ロシアでは修理だけは男の仕事であり、家でなにかが壊れたら、女のではなく、必ず男が修理する。よって、日本はものに対してロシアよりジェンダーフリーであり、ジェンダーフリーは日本のものに対する特徴の 1 つである。

なお、「修理意識」尺度について、日本とロシアの間では有意な違いが見られなかった。よって、日本とロシアでは修理意識は同じ水準である。

また、仮設に反して、2 つの尺度の因子得点はロシアのほうが高かった。それはものの品質を重視する「品質意識」尺度と、「身の回りの清潔性」尺度、掃除をよくし汚いものを置かないように意識し、部屋のものの整理を頻繁に行い、ティッシュペーパーなどいつも持ち歩いていること。品質意識について、そもそも「品質」の概念はロシアと日本では違うことを無視したことを反省している。日本では一般的に使われるものの品質はロシアの品質水準より高いので、ロシア人の「品質を重視する」と日本人の「品質を重視する」回答を同一に扱うことは間違いだったと考える。なお、「身の回りの清潔性」尺度について、ロシア人は「家政に熱心な」と言われているので、掃除、整理、清潔性といった特徴を持っている。

(2) 普段の行動・態度について

仮説の時点で作った「普段の行動・態度」の 7 尺度を因子分析を通じて 4 尺度にまとめることができた。比較分析の結果、日本のほうが有意な確立でロシアと違う尺度は「他の人・行動・言葉に気を遣う」、「環境に気を使う」だった。「服装・美容に気を遣う」、「食べ物・健康に気をつかう」の尺度では国の間の有意な違いは見られなかった。

(3)「ものに対する考え」と「普段の態度・行動」の相関について

ロシアと日本の「ものに対する考え」と「普段の行動・態度」相関分析の結果、表 6 でまとめたものである。ここでそれぞれの尺度の間の相関についてと、ロシアと日本でその相関の性質の違いについて考察する。

まず、日本とロシアの両国ででてきた相関について考える。「もったいない」と「他の人・行動・言葉」の相関。ものを平気で捨てるのではなく、ものを捨てるのはよくないと思う人。資源を何も考えずに使うのではなく、節約しようとする人。ものを丁寧に扱うように意識する人。そのような人は日本でも、ロシアでも他の人、自分の行動や言葉をさらに意識する人である。それはマテリアル・カルチャーの基礎である。また、「もったいない」と「環境に気をつかう」という相関も、当たり前のように見える。資源を大事にする人ほど、環境のことを考える人である。同様は「身の回りの清潔性」と「食べ物・健康」の相関。自分の回りの環境をきれいにすることを意識すれば、食事や健康も意識する。両国で見られた相関は、国籍関係なく、どの人にとっても一般的なことだと考える。

次に、日本の相関分析の結果について考察する。日本の相関分析結果ではロシアでは見られない、「アニミズム」尺度はでてきた。「アニミズム」は日本人の独特のもの観であり、日本の場合だけ、「アニミズム」は他の生活の面に影響を与える。「アニミズム」は「他の人・行動・言葉」や「食べ物・健康」にいい影響を与える。ものに心を認め、ものに感謝や愛着性の気持ちを持てば持つほど、他の人にも気を使い、自分の精神も磨き、それによって行動や言葉、自分の健康や食生活をさらに意識するようになる。

「もの気遣い」や「修理意識」の「服装・美容」への影響について、筆者はこのように考える。日本人は「もの気遣い」をし、つまりものの汚れや破損を防ぐ、服をよく洗う、ものの粗末な扱いを認めないことをすることや「修理意識」を持っている理由は、ものそのものがきれいであるべきと考えているからである。なので、服装・美容にも気をつかう。「もったいない」と「食べ物・健康」の相関も同様の考えに基づく。食べ物を捨てる、使いすぎるのはもったいないから、食べ物のことを考え、大事に使い、結果として自分の健康にも気をつかう。

そして、「身の回りの清潔性」と「人・行動・言葉」という相関について、筆者はこのように考える。日本人はもののことを考えるから、周りをきれいにする。日本の場合、ものをきれいにするというのは、ものを思う心を表し、他の人のことを思う心とつながる。あるいは、他の人のことを考えるから、ものをきれいにする。みんながものを使うから。そのために自分の行動や言葉もきれいにし、ものと他の人とともに生きることを意識する。

以上のことをまとめると、日本のものの扱いと普段の態度・行動の相関の性質は、外部

的である。日本人のものを大切に扱う行為は、外部に向けた行為であり、外部的な生活の面に影響を与える。ものの大切扱いはもののために、他の人のために行われている。

一方、ロシアの場合、ものの扱いは自分の満足、自分の生活の水準の向上のためであり、内的な性質を持っているように見える。

「もの気遣い」をする人は、食べ物や健康に気をつかう。つまり、自分の周りのものを大切に扱ったら、それは自分の健康にいい影響を与える。同じように、「身の回りの清潔性」を気にする人は、自分の「服装・美容」に気をつかう。自分の服や顔がきれいであるために、周りをきれいにする。「もったいない」と「服装・美容」の相関も似たような性質を持っている。自分の服を大事に扱わないと、それは自分の見た目に悪い影響を与える。またロシアの「美意識」の「他の人・行動・言葉」や「服装・美容」への影響について、筆者は次のように考える。きれいなものを大事にし、意識する人は、自分の服をきれいにし、美容にも気をつける。つまり、ものに対する美意識は、ロシアの場合、自分の満足につながる。そして、ロシアの「美意識」の他の人や自分の行動や言葉との関係について、ものの美醜、ものの秩序に気づく人は、他の人のこと、自分の行動、自分の言葉遣いに気づくようになる。しかしそれもまた自分のアピール、自分の価値を世間の目にとって高く見せるためであり、自分の内的な部分にしか影響を与えないと思われる。

終わりに

本研究の第 1 の目的は、ロシアとの比較を通じて、日本人のマテリアル・カルチャーの特徴を見出すことであった。結果として、その特徴は「もの気遣い」、「美意識」、「アニミズム」、「もったいない」や「ジェンダーフリー」であることを確認された。また、「修理意識」、「品質意識」や「身の回りの清潔性」は日本人のマテリア・カルチャーの特徴ではないという結果になった。

また、本研究の RQ は、日本人がものを生活の作法としているので、「日本ではものを大切に扱うほど、他の生活の面もよくなるのではないか」というものだった。第 2 の目的である、仮説を確認することのために、「ものに対する考え」尺度と「普段の態度・行動」の尺度の間、相関分析を行い、日本とロシアの比較をした。ロシアではものの扱いと他の生活の面は別の世界であるので、ロシアでは 2 つの尺度のグループでは相関がないと考えた。分析の結果、日本だけの相関は見られたが、両国やロシアだけの相関も見られた。両国のものの扱いの他の生活の面への影響は、マテリアル・カルチャーの基礎的な理論であり、どの社会でもマテリアル・カルチャーが人々の生活にある程度影響を及ぼすことを意味する。また、たしかに仮説に反してロシアだけで存在するものの扱いと普段の行動・態度の間の相関がでてきた。しかし、よく見ると、その相関の性質は日本とまったく違う。たとえば、「もの気遣い」、「もったいない」や「清潔性」の尺度は日本でもロシアでも他の生活の面に影響を与える。しかし、日本の「もの気遣い」、「もったいない」や「清潔性」は、ものを思う心とつながる。またそういったもの扱いを通して、日本人は「正しい」、「きれい」、「やさしい」概念を見ににつけ、自分の服、食べ物、健康、他の人、行動や言葉を「正しく」、「きれいに」、「やさしく」扱うようになる。ロシアの場合はどうだろうか。ロシアの場合、ものを気遣う人は、食べ物や健康に気をつかう。清潔性や

もったいない意識を持つ人は、服装や美容に気をつかう。ロシアの場合、もののよい扱いは日本のように、自分を成長させ、自分の世界観に影響を与えるのではなく、単に自分の生活水準を高くし、それによって自分の満足を満たすだけである。その原因は、ものの見方、ものの認識の違いにあると思われる。

以上をまとめると、日本の場合はものの扱いと他の生活の面のつながりの性質はより広い意味を持ち、自分の人柄を変化させ、人々の関心を外部に向けるのである。それに対し、ロシアではものの扱いは他の生活の面に日本ほどの影響力を持たない。ロシア人のいいものの扱いは衛生的、実践的に自分の生活にいい影響を与え、自分の満足度の向上としかつながらない。ロシア人の「他の人・行動・言葉に気を遣う」や「環境を大事にする」尺度の低い水準もその結果とつながっていると考える。

その結果はどういった価値を持つかについてまとめたい。本研究を通して、日本人のものの見方は日本人の生活の作法であるということを実践的に確認した。日本のものの見方、扱い方は日本人の世界を広めるのである。日本人のもの観は外部の世界に目を合わせ、人を成長させていく。なので、ものと共に生きることの重要性さやものの大事な扱い方の大切の考え方は、世界の人々に広めることで、世界の人たちはさらに幸せになれると考える。筆者はそのために日本企業の進出支援の仕事を選び、その仕事を通じて日本の素晴らしいものの見方や扱い方を世界の人々に理解し、広めていきたい。

筆者は本研究では日本とロシアの比較を通じて、日本人のマテリアル・カルチャーの特徴や他の生活の面への良い影響の大切について論じてきた。今後の研究の課題は、比較の対象を拡大し、ロシア以外、他の国との比較を行い、同様な結果が得られるかどうかとのことを確認すること。

最後に、本調査に協力をしてくれた人たちに感謝する。また、本卒業論文の作成にあたりいつも助けていた立木教授や松川研究員に感謝する。そして、日本で勉強をできる機会を与えてくれた両親、日本語や日本のことを教えくれたサンクトペテルブルク財政・経済学大学の日本語の先生たち、同志社大学の先生たちや、日本での生活を支えくれた人たちのみんなにも心から感謝する。

参考文献

Appadurai, Arjun, 1988, “The social life of things”, Cambridge University Press.

Baudrillard, Jean, 1970, “La Société de consommation”, Editions Planete .（＝1979、今村仁司・塚原史訳、『消費社会の神話と構造』、紀伊國屋書店.）

Hegel, Georg Wilhelm Friedrich , 1807, “Phänomenologie des Geistes”, Joseph Anton Goebhardt, Bamberg und Würzburg.（=1977, A.V. Miller translation, “Phenomelogy　of spirit”, Oxford: Clarendon Press）.

Mead, George Herbert, 1934, “Mind, Self, and Society”, ed. C.W.Morris, University of Chicago.（＝1995、河村望訳、『精神自我社会』、人間の科学者）.

Miller, Daniel, 2005, “Introduction”, Duke Press.

Price, John A., 1973, “The Superorganic Fringe. Protoculture, Indioculture, and Material Culture”, “Ethos”: 201-218.

Sahlins, Marshall David, 1976, “Culture and practical reason”, University of Chicago Press.（＝1987、山内昶訳、『人類学と文化記号論―文化と実践理性』、法政大学出版局.）

榮久庵憲司、『ものと日本人』、東京書籍 , 1994。

内堀基光（編）・近藤雅樹（編）、1997、『「もの」の人間世界』、岩波書店、1997。
小木曽道夫、2012、『SPSS によるやさしいアンケート分析　第２版』、オーム社。
小寺平治、2013、『ゼロから学ぶ統計解析』、講談者。
祖父江孝男・中村俊亀智・大給近達・大塚和義、1978、国立民族学博物館研究報告 3 券 2 号『物質文化研究の方法をめぐって』。
祖父江孝男・杉田 繁治、1984、『現代日本文化における伝統と変容 1 暮らしの美意識』、ドメス出版。
田中雅一（編）『フェティシズム論の系譜と展開』、京都大学出版会、2009。
IBM Knowledge Center, 2012, 「探索的」、（2014 年 12 月 10 日取得、http://www-01.ibm.com/support/knowledgecenter/SSLVMB_21.0.0/com.ibm.spss.statistics.help/idh_exam.htm?lang=ja）
IBM Knowledge Center, 2012, 「探索的分析の統計」、（2014 年 12 月 10 日取得、http://www-01.ibm.com/support/knowledgecenter/SSLVMB_20.0.0/com.ibm.spss.statistics.help/idh_exam_sta.htm?lang=ja）